

ニ明記セラルル條件ニ依リ修正セラレ、更改セラレ又ハ廢棄セラレザル限リ引續キ效力ヲ有スベシ

第五十八條

前條ニ規定セラルルX年ノ期間ノ終了前ニ於テモ條約ノ實施後早クトモY年後ニ於テハ本條約ハ會議ニ會合スル締約國ニ依リ再審査セラルベシ右會合ノ日ハ常設軍縮委員會ノ意見及國際聯盟ノ非聯盟國タル締約國ノ意嚮ヲ確メタル後國際聯盟理事會ニ依リ決定セラルベシ

右會議ハ必要アル場合ニハ本條約ノ改訂ヲ爲シ且右ニ代ルベキ新規定ヲ作成スルコト（之ガ存續期間ヲ定メ且之ガ審査及必要アルトキハ之ガ爾後ノ改訂ニ關スル一般規定ヲ定メテ）ヲ得ベシ

第五十九條（註）

（註） 獨逸國代表ノ留保參照 報告書第二百九十五項

尙前條ニ示サルルY年ノ期間ノ終了前ニ於テモ本條約ノ實施後早クトモZ年後ニ於テ、本條約ニ規定セラルル約束ノ締結ノ爲ノ條件ガ技術上ノ變化又ハ特殊事情ノ發生ノ結果トシテ新ナル審査及必要アルトキハ右約束ノ改訂ヲ正當ナラシムル變更ヲ受ケタル場合ニハ常設軍縮委員會ノ同意ヲ得タル締約國ノ請求ニ依リ前條ニ定メラルル審査及改訂ノ手續ヲ行フコトヲ得ベシ

第六十條

前二條ニ規定セラルル條件ノ下ニ開催セラルル會議中ニ於テハ何レノ締約國モ本條約ヲ廢棄セントスルノ意志ヲ通告スルノ權利ヲ有スベシ

右廢棄ノ通告ハ通告ノ日ノ後二年ニシテ效力ヲ生ズベク且何レノ場合ニ於テモ第五十七條ニ掲ゲラルルX年ノ期間ノ満了前ニ於テハ效力ヲ生ゼザルベシ

〈補〉

2 軍縮條約案ノ逐條説明書

昭和六年十一月

軍縮條約案ノ逐條説明書

秘

條約局第三課

目次

緒言	一
前文	五
第一條	七
第一編 人	九
甲 章 人員	九
乙 章 勤務期間	一七
第二編 機材	二一
甲 章 陸軍軍備	二一
乙 章 海軍軍備	二四
丙 章 空軍軍備	三四
第三編 豫算上ノ支出	三九
第四編 報道ノ交換	四一

第五編	化學兵器	五一
第六編	一般規定	五五
甲	章 常設軍縮委員會	五六
乙	章 除外例	六二
丙	章 異議申立ノ手續	六四
丁	章 最終規定	六五

緒 言

軍縮條約案ハ軍縮會議準備委員會ノ四年有半ニ渉ル研究討議ノ結晶ニシテ聯盟規約第八條ニ基ク一般の軍備制限及縮少ニ關スル方式トシテ恐ラク現時ニ於テ實現シ得ヘキ最大限度ノ協定事項ヲ包含スルモノトス

軍縮會議準備委員會ハ其ノ設置ノ當初ニ於テハA B兩小委員會竝ニ軍事豫算専門委員會及非軍用航空問題分科會等ヲ設ケ軍縮事業ノ基礎事項ニ付詳細ナル研究ヲ遂ケタルカ千九百二十七年春ノ第三回會議ニ於テ英佛兩國代表ヨリ軍縮條約原案ノ提出アリタル後ハ專ラ軍縮條約案ノ作成ニ努メ先ツ同會議ニ於テ第一讀會ヲ了シタル上千九百二十七年末及千九百二十八年春ノ第四回及第五回會議ニ於テハ「ソヴィエト」政府提出ノ軍縮條約案等討議ノ爲一時英佛兩案ノ討議ヲ見サリシモ千九百二十九年春ノ第六回前半會議ニ於テ條約案第二讀會ノ一部ヲ了シ千九百三十年末ノ第六回後半會議ニ至リ第二讀會ノ繼續、第三讀會竝ニ條文ノ整理ヲ行ヒ遂ニ全文六十條及多數ノ附屬表ヨリ成ル本條約案ノ採擇ヲ見タル次第ナリ本條約案ニ對シテハ獨逸及「ソヴィエト」聯邦代表ノ全般的留保アリ又各條ニ對スル各國代表ノ留保事項亦尠カラサルノミナラス軍縮會議準備委

員會ニ參加セサリシ諸國ノ意見モ之アルヘキヲ以テ軍縮本會議ニ於テ本條約案ニ對シ更ニ幾多ノ議論アルヘキハ豫想ニ難カラサルモ兎ニ角本條約案カ同會議ノ討議ノ基礎タルヘキコトニ付テハ疑ヲ容レズ

條約案ハ前後六編ヨリ成ル即チ第一編ハ人員制限、第二編ハ機材制限、第三編ハ軍事費制限、第四編ハ報道交換（公表）、第五編ハ化學戰禁止、第六編ハ一般問題（就中常設軍縮委員會ノ任務）ニ付夫々規定ス以下條ヲ逐フテ各規定ノ沿革及意義ヲ略說スヘシ尙本條約案ニ付テハ特ニ準備委員會最終報告書（英佛文）及同委員會ニ於ケル帝國代表部ノ報告書ヲ參照セラレ度ク又同委員會カ軍事豫算專門委員會及航空機馬力算定規則研究委員會ノ研究ニ委シタル事項（第十條、第二十四條、第二十九條、第三十三條、第三十八條及第二十七條）ニ付テハ右兩委員會ノ報告書併セ參照ヲ請フ

主要關係書類目錄

- 一、軍縮準備委員會第一回乃至第六回（前半及後半）會議議事錄
- 二、同委員會第三回會議及第六回後半會議報告書
- 三、非軍用航空專門委員會報告
- 四、軍事豫算專門委員會第三回及第五回會議報告書
- 五、飛行機及飛行船用發動機力算定規則研究委員會報告書

前 文

本條約ノ第一讀會案ニハ前文トシテ英佛獨三國ヨリ提出ノ案文掲ケラレ居タル處第六回後半會議
(第二讀會)ニ於テハ一應之カ審議ヲ條約案各條項決定ノ後ニ讓ルコトトセルモ右第二讀會終了
スルヤ議長ヨリ前文ハ條約案ノ内容ニ依リ異ルヘク從テ軍縮本會議ニ於テ條約ノ内容確定ニ至ル
以前ニ於テ之カ審議ヲ爲スモ無益ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ結局前文ノ決定ハ本會議ニ讓リ條約案
文中ヨリ全部削除スルニ決セル次第ナリ(第六回後半會議議事録二八七頁)

第一條

本條ハ軍縮條約ノ根本原則ヲ表明スル極メテ重要ナル條項ニシテ「締約國ハ本條約ニ規定セラルル所ニ從ヒ各自ノ軍備ヲ制限シ及能フ限り之ヲ縮少スルコト約ス」ル旨規定シ居レリ

本條ハ第一讀會案及第二讀會案ニハ存在セス第六回後半會議ニ於ケル起草委員會ニ於テ條文整理ノ際新ニ挿入セラレタル規定ナリ其ノ沿革左ノ如シ即チ「ソヴィエト」聯邦政府ハ準備委員會第四回會議ノ際軍備全廢ニ關スル提案ヲ爲シ第五回會議ニ於テ其ノ否決セラルルヤ更ニ比率ニ依ル軍備漸減案ヲ提出シタルモ之亦第六回前半會議ニ於テ審議ノ結果委員會ノ容ルル所トナラス依テ「ソ」代表ハ同案ノ根本主義タル「現存兵力ノ實質的縮少ヲ以テ條約案ノ基礎トスルヤ否ヤ」ノ點ニ付委員會ノ決定ヲ求メタルニ對シ委員會ハ幹部會ノ提案ニ依リ聯盟規約第八條ノ趣旨ニ基ク左記決議ヲ可決セリ（第六回前半會議議事録三一頁以下及三七頁以下）

「準備委員會ノ理事會ヨリ受ケタル任務ハ軍備縮少ヲ實行スルコトニ存セスシテ國ノ安全及共同動作ニ依ル國際義務ノ強制ニ支障ナキ最低減度ノ軍縮案ヲ作成スルニ在リ右軍縮案ハ軍縮會議ニ參加スヘキ各國政府ノ審査及決定ニ付セラルヘキモノトス

準備委員會ハ軍縮會議開催ノ際同會議カ各國軍備ヲ能フ限リ實質的ニ縮少シ得ル如キ軍縮案ヲ作成シツツアリ而シテ同會議ノ採擇スヘキ條約案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラレルヘク且更正セララルヘキコト勿論ナリ

第六回後半會議ニ於テ「ソ」代表ハ右決議ヲ基礎トシ條約案各條項ニ關シ各締約國ハ單ニ「制限」ニ止ラス進ンテ「縮少」ヲ約スルコトトスヘキ旨ノ修正案ヲ反覆提出シ殊ニ海軍條項ニ付論議セラレタルカ各國代表中（例ヘハ西國代表）ニハ自國軍備ノ現狀殊ニ海空軍軍備ノ現狀ハ國ノ安全ヲ保障スルニ足ラサルモノアルヲ以テ「ソ」修正案ニハ同意シ難キ旨ヲ述フルモノアリ結局佛英代表ノ提案ニ依リ「制限」且能フ限リ縮少ス」トノ案文ヲ採擇スルコトナリ（第六回後半會議議事録一五一頁以下）次テ起草委員會ニ於テ右ノ如キ用語ヲ各條項ニ付繰返スノ煩ヲ避クル爲メ本條ノ如キ總括的規定ヲ以テ之ニ代フルコトニ決定セル次第ナリ

（註）「制限」及「縮少」ノ意義ニ關シテハ準備委員會A小委員會報告六二頁參照右報告ニ依レハ「制限」トハ「各國力超過セサルヘキコトヲ約スル軍備ノ水準ノ決定」ニシテ「縮少」トハ「各國力其ノ軍備ヲ右水準迄引下クル爲執ルヘキ措置」ナルヲ以テ「制限」必スシモ現狀維持又ハ軍擴チ意味スル次第ニ非サルモ通常ハ「制限」ト「縮少」トチ對立セシメテ考慮スルヲ以テ前記ノ如キ論議ヲ生シタルナリ

第一編 人

本編ハ（一）陸、海、空、三軍ニ涉ル人員ノ制限及（二）勤務期間ノ制限ニ關シ規定ス即チ甲章（第二條、第三條及第四條）並其ノ附屬表ハ人員制限ヲ又乙章（第五條乃至第九條）並其ノ附屬表ハ勤務期間ノ制限ヲ夫々規定ス

甲章 人 員

第 二 條

本條ハ人員制限ノ根本原則ヲ掲グルモノニシテ即チ各締約國ハ附屬表ニ從ヒ各自國ノ陸海空軍及軍隊的組織團體ノ人員（第三條ニ依ル日割平均人員）ヲ制限スヘキ旨規定シ其ノ詳細ハ之ヲ十二個ノ附屬表ニ讓リ居レリ第一、第二及第三讀會案ニ於テハ本件人員制限ハ領土的區別制限ニ關スル條項（第A條）及階級的區別制限ニ關スル條項（第H條）ニ分チ之ヲ規定シアリタルモ第六回後半會議起草委員會ニ於テ條文整理ノ際右二條項ニ代フルニ本第二條及附屬表ヲ以テスルコトト

セル次第ナリ本條及附屬表ヲ了解スルカ爲ニハ先ツ左記諸點ニ付注意スルコトヲ要ス

一、海空軍人員制限可否ノ問題

條約案討議ノ當初即チ準備委員會第三回會議ノ際ニハ陸軍ノ人員ヲ制限スルコトニハ異論ナカリシモ海空軍人員制限ノ可否ニ付テハ議論岐レ佛國代表ハ三軍人員間ノ密接ナル關係ニ顧ミ海空軍人員ヲ制限セスシテ陸軍人員ノミヲ制限スルノ不可ナル所以ヲ説キタルニ對シ日英米各代表ハ海軍制限ハ艦艇ノ制限ヲ以テ足り人員制限ノ必要ナシト爲シ又英國代表ハ空軍ニ付テモ同様人員ノ制限ニ反對ノ態度ニ出テタルカ其ノ後英米共 (一) 一切ノ國カ同意スルコト (二) 艦艇制限ニ關シ満足ナル協定ニ達スルコトヲ條件トシテ海軍人員ノ制限ニ同意シ又英ハ空軍ノ人員制限ニモ同意セルヲ以テ我方又 (一) 海軍人員ノ制限ハ士官、下士官、兵ヲ區別セサル全數ニ依リ行ハルヘキコト (二) 海軍人員數ト艦艇トノ間ニハ制限上何等一定ノ比例ヲ保タシメサルヘキコト (三) 海軍人員ノ制限ハ行政教育機關ニ必要ナル職員ノ充實及條約ニ依リ保有スヘキ各國艦艇ノ乗員補充ニ何等ノ支障ヲ來スヘキモノニ非サルコトノ三條件ヲ附シテ海軍人員ノ制限ヲ受諾スルコトトセリ (第三回會議事錄三二三頁) 右日英米三國ノ讓歩ニ依リ人員制限ハ陸海空三軍ニ涉リテ行ハルルノ主義ハ成立セルモ右ノ如キ經緯アリタルニ鑑ミ制限ノ様式(例ヘハ領土別制限及階級別制限)ハ三軍

ニ依リ必スシモ同一ナラサルコト後述ノ通ナリ

二、豫後備兵制限問題

本問題ハ人員制限問題中最論議セラレタル所ニシテ第三回會議ノ際提出セラレタル英國提案ハ陸軍人員ノ制限ヲ開戦後一定ノ期間内ニ一國ノ戦線ニ使用シ得ヘキ兵員(即チ豫後備兵ヲ含ム)ニ對シ行ハムトスルモノニシテ(其ノ主ナル理由ハ開戦當初ニ於ケル侵略兵力ニ制限ヲ加フルヲ以テ軍縮會議ノ主ナル目的ナリト云フニ在リ)米、獨、蘭、瑞典代表等亦豫後備兵制限ノ必要ナル理由ヲ擧ケテ之ニ贊シタルカ他方佛國提案ハ人員制限ノ範圍ヲ平時人員ニ限定セムトシ右ニ對シテハ日伊代表ノ贊成アリ(第三回會議事錄四五頁(英)五二頁(日)五二頁(佛)五四頁及六六頁(米)六〇頁(獨)六三頁(伊)) 結局第一讀會案トシテ大體佛案ヲ採擇シ之ニ對シ英米獨諸代表ノ一般的留保ヲ附記スルコトトナレルカ其ノ後千九百二十八年夏所謂英佛海軍協定成立ノ際ニ於ケル英佛間交換公文中ニ於テ英國政府ハ佛國カ海軍制限方式ニ關シ總噸數主義ヲ捨テ艦種別制限ヲ受諾セル代價トシテ豫後備兵除外ニ關スル自國ノ反對ヲ撤回スヘキ旨ヲ聲明シ(本件協定ハ米伊兩國ノ反對ニ依リ消滅ス) 次テ第六回前半會議ノ際米國代表ヨリ海軍問題ニ關スル聲明(所謂「ギブソン」聲明)ヲ爲シタル際米國ハ陸軍問題ハ寧ロ之ヲ他ノ主要關係國ノ論議ニ讓リ實際

上協定ノ成立ヲ容易ナラシムヘキ一切ノ讓歩ヲ爲スニ吝ナラスト述ヘ(第六回前半會議事錄五
六頁及一一四頁)英代表亦同一ノ態度ニ出テ(同四二頁及一二二頁)タル爲豫後備兵問題ハ實際
上解決セラレタルノ感アリ同會議中獨代表ヨリ之ヲ蒸返サムト試ミ(同一一六頁)「ソヴィエト」
代表及支那代表之ヲ支持セルモ大勢ハ如何トモスヘカラス(同一三三頁)其ノ後第六回後半會議
ノ際「ソヴィエト」代表ヨリ更ニ亦之ヲ覆サムトスル修正案出テタルモ之亦否決セラレ斯テ豫後
備兵ハ全ク之ヲ制限外ニ置クノ主義認メラレタル次第ニシテ後出第三條日割平均人員ノ算出方法
ノ規定ニ於テモ此ノ點ハ頗ル明白トナリ居レリ尤モ豫後備兵ト雖モ或年度ニ於テ一定期間教育召
集ヲ受クル者ハ該年度ノ人員中ニ之ヲ算入スヘキコト勿論ナリ(報告書第五一項)

三、領土區別制限

第三回會議ニ於ケル英原案ハ本國陸軍人員ノ制限ノミヲ規定シ植民地軍ノ制限ハ之ヲ考慮ニ入レ
サリシニ反シ佛原案ハ本國軍、本國ニ駐屯スル植民地軍及植民地軍ノ三分チ其ノ各々ニ付制限
ヲ加ヘムトスルモノニシテ同會議ニ於テモ種々議論アリタルカ(議事錄七一頁以下)更ニ第六回
前半會議ニ於テ本件ヲ議シタル結果左ノ如ク決定セリ

(一) 陸軍ニ付テハ本國駐屯兵力、海外駐屯兵力(任意)及總兵力ノ各々ニ付制限シ

(二) 陸軍々隊の組織團體ニ付テハ本國駐屯兵力及海外駐屯兵力ニ付制限シ

(三) 海軍及其ノ軍隊の組織團體ニ付テハ領土の區別ヲ廢シテ總兵力ニ付制限トシ

(四) 空軍ニ付テハ(一)及(二)ト同様ナルモ唯(一)ノ本國駐屯兵力ノ制限ヲモ任意トス

我方ハ當初ヨリ可成領土の區別ヲ廢止スルノ方針ヲ以テ進ミ假令區別的制限トスルモ之カ採否ハ
各國ノ任意トセムコトヲ主張シ空軍ニ關シテハ之ヲ貫徹セリ

尙本件ニ付伊國代表ハ地理的狀況ニ依リ植民地軍ヲ本國軍ト區別スルノ無意味ナルコトアルヘキ
ヲ指摘シ本會議ニ於テ更ニ問題トスルコトアルヘキ旨ヲ留保セリ(報告書第七三項)

四、階級的區別制限

英國原案ハ將校、下士及兵卒ヲ各國ニ共通ノ一定ノ比率ヲ以テ制限セムトスルモノナリシカ右ハ
第三回會議ノ際直ニ否決セテレ次テ階級區別ノ態樣ニ關シ陸海空軍ニ付議論アリ結局陸空軍ニ關
シテハ第六回前半會議ノ際又海軍ニ關シテハ同後半會議ノ際夫々左ノ如ク決定ヲ見タリ

(一) 陸軍及其ノ軍隊の組織團體ニ付テハ(イ)總兵力(ロ)將校及(ハ)締約國中ノ最長現役年數ヲ
超ユル勤務期間ヲ有スル軍人ノ三分チテ制限シ

(二) 海軍及其ノ軍隊の組織團體ニ付テハ階級的區別ヲ廢シ總兵力ニ付制限シ(但シ第三十條ニ

於テ海軍ニ付テモ階級の區別公表ヲ行フコトシテ之ヲ補足ス

- (三) 空軍及其ノ軍隊組織團體ニ付テハ (イ) 總兵力 (ロ) 締約國中ノ最長現役年數ヲ超ユル勤務期間ヲ有スル軍人ノ二ニ分チテ制限スルコトトス

我方ハ從來階級の區別廢止ノ方針ヲ以テ進ミ殊ニ海軍ニ付テハ特ニ強硬ニ之ヲ主張セル結果之カ貫徹ヲ見タル次第ナリ (第六回後半會議議事録二七頁及二四一頁)

本章各附屬表ハ以上ノ諸決定ヲ表トシテ現ハシタルモノニシテ即チ

第一表乃至第五表ハ陸軍及其ノ軍隊の組織團體

第六表及第七表ハ海軍及其ノ軍隊の組織團體

第八表乃至第十二表ハ空軍及其ノ軍隊の組織團體

ニ付夫々領土別及階級別ノ制限方式ヲ示セルモノナリ表中「任意的」ナル記載アルハ該欄ノ制限ハ各締約國カ受諾スルト否ト全ク自由ナルヲ示スモノニシテ締約國中ニハ各種ノ國情ヨリシテ却テ右制限ヲ受諾スルヲ欲スルモノアルヘキヲ豫想シ設ケラレタルモノナリ其ノ他本條及附屬表ノ用語ノ定義ニ付テハ第三條及第四條並ニ附屬表脚註參照又本條ニ關スル各國ノ留保ハ報告書第七二項乃至第七九項ニ記載アリ

第三條

一、本條ハ前條ニ所謂「日割平均人員」ノ定義ヲ掲ク即チ日割平均人員ハ勤務日數ヲ該年度ノ日數三六五或ハ三六六(閏年)ニテ除スルコトニ依リ之ヲ算出スルモノトス例ヘハ次ノ如シ

1、毎年十萬人徵集在營一年半トセハ(平年)

$$\left. \begin{aligned} 100,000 \times \frac{365}{365} &= 100,000 \\ 100,000 \times \frac{183}{365} &= 50,000 \end{aligned} \right\} 150,000 \dots \text{日割平均人員}$$

2、毎年九萬人ノ豫備兵ヲ三週間、五萬人ノ後備兵ヲ二週間召集スルトセハ

$$\left. \begin{aligned} \text{豫備兵} \quad 90,000 \times \frac{21}{365} &= 5,130 \\ \text{後備兵} \quad 50,000 \times \frac{14}{365} &= 1,900 \end{aligned} \right\} 7,030 \dots \text{日割平均人員}$$

二、本條ハ第一讀會案ノ第五條ニ該當スルモノニシテ同條ニ於テハ日割計算ハ軍隊ニ勤務スル人員ニノミ適用シ軍隊の組織團體ニ屬スル者ハ實數ニ依ルコトトナリ居タルカ第六回前半會議ノ際英國代表ノ提案ニ依リ双共方日割計算ニ依ルコトニ改メタルモノナリ(議事録一五四頁)

三、尙本條ノ解釋トシテ人員ノ日割計算ニハ教育召集中ノ豫後備兵モ又一般將校モ包含セラルル
コトニ一致シ居レリ（同議事録一五五頁）

第四條

本條ハ第二條附屬表ニ所謂軍隊の組織團體ノ定義ヲ掲ケ更ニ之ニ關聯シテ動員ノ定義ヲ掲ケ第一
讀會案ノ第C條及第D條ヲ併合セルモノナリ本條ニ依レハ軍隊の組織團體トハ「法律上ノ用途如
何ヲ問ハス平時ヨリ幹部、編制、教育、兵器、裝具ニ依リ動員ノ措置ナクシテ軍事上ノ目的ニ使
用セラル得ヘキ各種警察、憲兵、稅關吏、森林監守及右條件ニ該當スル他ノ一切ノ團體」ヲ指ス
モノニシテ或種具體的團體カ果シテ本條ニ所謂組織團體ニ該當スルヤ否ヤハ個々ノ場合ニ付一々
檢討決定スルノ外ナシ現ニA小委員會ニ於テモ（同小委員會報告書二三頁）第一讀會ニ於テモ
（第三回會議議事録八七頁）種々議論アリ就中第六回前半會議ノ際「チエッコスロヴァキア」代
表ヨリ米國護境軍ハ本件組織團體ニ該當セストノ趣旨ノ了解ヲ米國代表ニ與ヘムコトヲ提議シ
（議事録一一九頁）議長ハ之ヲ適當ノ箇所ニ記載スヘキ旨宣言シタルカ（同一二三頁）第六回後半
會議ニ至リ我方代表ハ正面ヨリ右ニ反對シ物議ヲ醸スヨリモ寧ロ本會議ニ於テ議スルヲ有利ト認
メ「軍隊的組織團體ノ定義ハ本條ニ規定セラルルモ其ノ編成ハ各國毎ニ異ナレル性質ヲ有スヘキ
コト明ニシテ軍縮本會議ニ於テハ各國ノ此種團體ニ付果シテ本條ニ所謂軍隊の組織團體ニ該當ス
ルモノナリヤ否ヤヲ檢討スルヲ要スルモノト認ム故ニ或國ノ或團體カ本條ノ制限ヲ受クヘキヤ否
ヤハ本會議ニ於テノミ之ヲ決定シ得ルモノトス日本代表部ハ右見解ノ下ニ本條ヲ受諾ス」トノ趣
旨ヲ述ヘ（議事録二九一頁）右ニ付テハ米國代表其ノ他異議ナク又右趣旨ハ報告書第五六項ニ記
載セラルルコトトナレリ從テ前記米國護境軍ニ關スル了解其ノモノハ報告書中ニハ記載セラレサ
ルコトトナレリ

乙章 勤務期間

第五條

本條ハ以下勤務期間即チ現役及爾後ノ召集期間等ノ制限ニ關スル諸規定ハ徵兵制度ニ依リ採用セ
ラルル人員ニノミ適用スルモノナルコトヲ明ニセルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第六條及第九條

一、右兩條ハ一括シテ考慮スルヲ要ス即チ第九條ハ各國ニ共通スル勤務期間ノ「天井」即チ何レ
ノ締約國ニ於テモ之以上長期ノ勤務總期間ヲ定ムルコトヲ許サレサル最長限度ヲ示シ第六條ハ

右最長限度ノ範圍内ニ於テ各締約國カ其ノ陸海空ノ各軍ニ付又軍隊的組織團體ニ付夫々超過セサルヘキコトヲ約スル勤務期間ヲ示スモノニシテ後者ニ付テハ右各國ノ受諾スヘキ勤務總期間ノ最大限ヲ記入スヘキ附屬表ヲ掲ク第六條ニ於テハ右ノ如ク陸海空ノ三軍ニ付夫々異レル最長限度ヲ定ムルコトトナリ居ルノミナラス更ニ軍隊ノ役種例ヘハ歩、騎、砲、工等ニ依リテ之ヲ異ニスルコトモ認メラレ居ルコトハ報告書第八一項記載ノ通ナリ

二、抑々第一讀會ノ際我方ハ兵役年限ノ制限ニ主義上反對シタルモ大勢之カ採擇ニ傾キタルヲ以テ「勤務總期間ハ各國ノ受諾シタル所ニ從フ」ノ趣旨ノ條文（第I條）ニ同意シタル次第ナルカ（議事録一〇〇頁及一〇七頁）第六回後半會議ニ於テ英波兩代表ヨリ新ニ各國共通ノ勤務總期間ノ最大限ヲ定ムルノ提案アリ我方ハ之ニモ亦反對シタルカ（議事録四七頁以下）表決ノ結果右提案採擇ニ決シ（同六〇頁）結局各國別最大限度（第六條）及各國共通ノ最大限度（第九條）ノ双方共採擇セラルコトトナリタル次第ナリ

三、尙本條ニ關シテハ年度徵集壯丁數ヲモ制限シ以テ間接ニ豫後備兵數ノ増加ヲ防カムトスル獨逸提案アリタルモ第六回後半會議ニ於テ之ヲ否決セリ（議事録三六頁以下）

第七條

一、本條ハ第六條及第九條ニ所謂勤務總期間（兵役年限）ノ意義ヲ明ニス即チ勤務總期間トハ各人カ其ノ國法ニ依リ服スルコトヲ要スル各種ノ勤務期間ニ含マルル總日數ナリト爲セリ第一讀會案（第I條）ニ於テハ右總期間トハ現役日數及教育召集期間日數ノ合計ヲ云フトアリタルヲ起草委員會ニ於テ右ノ如ク改メタルモノニシテ意味ハ何等異ルコトナシ

二、本條ニ付テハ現役日數ヲ他ノ勤務日數ト區別シテ表ハスヘシトノ提案英獨側ヨリアリタルモ佛國代表ハ本件ハ寧ロ公表ノ手段ニ委ヌルヲ可トスト主張シ其ノ結果右趣旨ヲ第三十二條（勤務期間ノ公表）ニ規定スルニ決セリ

第八條

本條ハ第六條ニ對スル例外規定ニシテ第六回後半會議ノ際白國代表ノ提案セル所ナリ即チ例ヘハ世界大戰ノ結果トシテ出生數ノ著シク減少シタル年ニ出生セル壯丁ヲ將來徵集スル場合或國ノ當然保有スヘキ兵員數ヲ保持スル爲ニハ勤務期間ヲ延長スルノ外ニ途ナキコトアルヘク斯ル場合ニハ特ニ例外トシテ條約所定ノ勤務期間ノ超過ヲ許スノ趣旨ナリ但シ右ノ如キ場合ニハ右例外的措置ヲ執ル國ハ理由ヲ附シテ各締約國及常設軍縮委員會（第四十條）ニ通告スルヲ要ス

第二編 機 材

本編ハ陸軍機材(甲章)海軍機材(乙章)及空軍機材(丙章)ノ制限ニ付規定ス

甲章 陸 軍 軍 備

第 十 條

陸軍機材ノ制限問題ハ本條約中最議論ノアリタル問題ニシテ第三回會議、第六回前半會議、同後半會議ニ於テ其ノ都度多大ノ論議ヲ費シ最後ニ表決ノ結果本條ノ如キ間接制限即チ機材ノ維持、購入及製造ニ要スル毎年經費ノ制限ニ依ルノ方式ニ一應落著ヲ見タル次第ナルカ本條ニ對シテハ尙有力ナル反對國モ尠カラサルニ依リ軍縮本會議ニ於テハ更ニ議論ノ再燃ヲ見ルヤモ測リ難シテ依テ從來ノ經過ヲ略述センニ

一、第三回會議ニ於テハ三軍機材ノ維持、購入及製造ニ要スル經費ノ制限ニ依ル間接制限案(佛案)ト陸軍ノ平時機材及貯藏機材ノ直接制限案(獨案)トノ對立アリ我方ハ當時其ノ何レニモ反對ナリシ爲困難ナル立場ニ立テタルカ獨案ハ結局反對者多ク第一讀會案トシテハ兩

案ヲ併記シ之ニ各國ノ留保ヲ附記スルニ止メタリ（議事録二二二頁乃至二二二頁）

二、第六回前半會議ニ於テハ又三日ニ涉リ前記兩案ノ原則ヲ議シタルカ間接制限ヲ可トスルモノハ日、佛、伊、波、塞、智、西、白、羅、英又直接制限ヲ可トスルモノハ露、獨、蘭、瑞典等ナリキ（我方ハ前回會議ノ態度ヲ改メ間接制限案ニ贊同セリ）斯クテ遂ニ議纏ラサリシヲ以テ米佛兩代表ハ妥協案トシテ兩案共ニ之ヲ採擇セス本件機材制限ハ之ヲ豫算ノ公表ニ依リ間接ニ之ヲ行フヲ可トストノ決議案ヲ提出シ大多數ヲ以テ可決セラレタリ（議事録一六〇頁乃至一八一頁）

三、右決議ハ第十回及第十一回聯盟總會第三委員會ニ於テモ批難多カリシカ第六回後半會議ニ於テハ先ツ本件再議ノ要否ヲ議シ一四對六ヲ以テ再議ニ決スルヤ再ヒ三日ニ涉リ前回同様ノ論戰アリ我方ハ米國等絶對ニ間接制限ニ同意シ得サル立場ヲモ考慮シ（一）原則トシテ間接制限方法ヲ採リ之ニ同意シ得サル國ハ直接制限ニ依ルコトスルカ（二）又ハ豫算ノ公表法ニ立戻ルカノ二方法アルノミナリト主張シタルカ結局英國代表提出ノ決議案及之ニ對スル伊、獨、蘇各代表ノ對案ニ付キ表決シタル處間接制限法ハ一六對三（棄權六）直接制限法ハ九對九（棄權七）兩法併合案ハ九對一一（棄權五）ノ結果ヲ示セリ依テ條文トシテハ佛國原案チ即

間接制限ノ規定ヲ掲クルト共ニ其ノ脚註トシテ前記表決ノ結果ヲ附記スルコトニ決セリ（議事録六一乃至一二九頁）

四、尙本條ハ單ニ機材制限ヲ間接制限法ニ依リテ行フノ原則ヲ示セルノミニシテ其ノ條件ハ「本條ノ附屬書ニ定ムル所ニ依ル」ト規定セラレアルニ過キス依テ佛代表ノ提案ニ基キ準備委員會ハ豫算專門委員會ヲシテ本件制限様式ヲ研究セシムヘキコトヲ決議スルト共ニ本條ノ脚註ニ「各國政府ハ軍縮本會議ニ於テ本條ニ對スル意見開陳ノ場合右專門委員會ノ報告ヲ考慮スヘシ」トノ趣旨ヲ記載スルニ決セリ其ノ後本件豫算委員會ノ作成セル制限様式ハ同委員會報告書記載ノ通ニシテ右ニ依レハ各國ハ陸軍機材經費トシテ總括的ニ一個ノ數字ヲ掲クルヲ以テ足ルコトトナリタリ

五、尙米國代表ハ本條ニ關シ間接制限ハ受諾シ得サルモ完全ナル豫算制限法ニ付協定成立ノ場合ニハ同國トシテハ直接制限法ヲ適用スルノ用意アリトノ重要ナル留保ヲ爲シ居レルコトハ注意ヲ要ス（報告書第九四項）

乙章 海軍機材

本章ハ海軍機材即チ艦艇ノ制限ニ關シテハ第三回會議ノ際英佛兩代表ヨリ提案アリタルモ艦艇ノ制限方式ニ關シ主義上意見ノ相違アリテ物分レトナリタルカ其ノ後本件海軍問題ニ關スル意見ノ不一致ハ外觀上聯盟ノ軍縮事業ヲ妨害スル主タル原因ナルヤニ認めラレ先以テ關係國間ノ豫備交渉ヲ必要トスルニ至リ千九百二十八年ニハ所謂英佛海軍協定成立セルモ之亦米伊ノ反對ニ依リテ流産ニ歸シ前途極メテ暗澹タルモノアリタリ然ルニ第六回前半會議ニ於テ端ナクモ米國代表「ギブソン」氏ノ聲明アリテ本問題解決ニ對シ一縷ノ曙光ヲ認ムルニ至リ次テ倫敦海軍會議ノ開催ハ本件海軍制限方式ニ關シ完全ナル妥協（伊國ノ一般的留保アルモ）ノ途ヲ開キタルニ依リ第六回後半會議ニ於テハ五大海軍國ニ關スル限リ本問題ニ付主義上ノ協定成立シ居リ從テ英國側ニ於テ倫敦條約ヲ基礎トシテ提出セル海軍條項原案ハ五國間ニ於テ極メテ輕微ナル修正ト共ニ可決セラレ次テ同案ニ對スル小海軍國側ノ意見ヲモ參酌シテ本章ノ各條項ノ採擇ヲ見タル次第ナリ

尙本章ト華府倫敦兩條約トノ關係ニ付テハ第五十三條參照

第十一條、第十二條及第十三條

一、右三條ハ海軍艦艇ノ制限方式ニ關スル根本原則ヲ規定スルモノニシテ一括之ヲ考慮スルノ要アリ即チ第十一條ハ各國ノ保有スヘキ總噸數制限ヲ規定シ第十二條ハ右噸數内ニ於ケル各國ノ艦種別噸數制限ヲ規定シ次テ第十三條ハ右艦種別制限噸數間ニ於ケル融通ノ原則ヲ規定セルモノナリ

二、第三回會議ノ際佛案ハ最初絶對的總噸數制限主義ヲ規定シ英案ハ詳細ナル艦種別噸數及隻數制限主義ヲ規定シタルカ討議ノ結果更ニ佛側ヨリ所謂「ボール、ボンクール」妥協案ノ提出アリ同案ハ條約期間保有スヘキ艦艇ヲ主力艦、航空母艦、一萬噸以下ノ水上艦艇及潛水艦ニ四分シテ制限スルト共ニ國防上ノ必要ニ依リ右區分ヲ變更セムトスル場合ニハ少クトモ一年前ニ之ヲ締約國ニ豫告スルヲ要スルコトヲ要旨トセルモノニシテ右ニ對シテハ更ニ我方ヨリ華府條約等ヲ考慮シ佛案ニ對スル修正案（特定國間ニ於テ右種變更ヲ行ハサルヘキコトヲ約スルヲ妨ケサルノ趣旨）ヲ提出スル所アリタルモ遂ニ妥結ヲ見スシテ同會議ヲ終了セリ（議事録二二五頁乃至二四一頁）

三、千九百二十八年ニ至リ本件ニ關スル英佛協定成立シタルモ米伊ノ反對ニ依リテ流産ニ歸シ次

テ倫敦海軍會議第一委員會ニ於テ五大海軍國間ニ制限方式成立セルヲ以テ（倫敦會議第一委員會報告書參照）軍縮準備委員會第六回後半會議ニ於テハ英國代表ヨリ右協定ヲ基礎トセル妥協案ノ提出アリ先ツ五大海軍國間ノ豫備的打合會ニ於テ意見ヲ取纏メタル後本委員會（海軍委員會）ヲ開キ更ニ又小海軍國ヲ加ヘタル小委員會ヲモ開キテ本條項ノ成立ヲ見タル次第ナリ（議事録一三六頁乃至一九四頁）

第十一條及第一表（總噸數制限）

本條ハ條約ノ有効期間中各締約國ノ保有シ得ヘキ總噸數ヲ規定ス但シ制限外艦艇（本章附屬書第一）ト特殊艦船（本章附屬書第二）ヲ除外スルコトハ倫敦條約ト趣旨ヲ同ウス本條ニ付テハ左記ノ如キ各國ノ留保アリ

- (イ) 伊國代表ハ本條ヲ削除シ第十二條ノミ即チ單一ナル艦種別制限ニ依ルヘシト主張シ且各國カ總噸數及比率ニ付協定ニ達スル以前ニ於テハ如何ナル制限方式ヲモ豫メ受諾シ得ストノ倫敦會議ノ際ニ於ケルト同一ノ一般の留保ヲ爲シタルカ（報告書第一〇八項及第一一二項）之レ佛伊均等ノ主張及佛伊海軍交渉ノ將來ヲ考慮シタルコト明ナリ
- (ロ) 小海軍國側ハ其ノ海軍カ未タ建設ノ半途ニ在ルヲ以テ大海軍國ト其ノ取扱ヲ同一ニスハカ

ラス即チ此等小海軍國カ本條ニ依リ受諾スヘキ總噸數ハ條約ノ有効期間ノミニ限ラルルヘク爾後ニ於ケル總噸數ノ要求ヲ何等拘束スヘカラスト主張セリ本條中「條約ノ有効期間中」トアルハ右主張ニ基クモノトス（報告書第一一二項乃至第一一六項）

第十二條及第二表（艦種別制限）

本條ハ前條所定ノ各國噸數ノ範圍内ニ於テ各國カ本條約ノ有効期間中行ハムトスル艦種別噸數分配ヲ規定ス

本條ニ依ル艦種別ハ大體ニ於テ倫敦條約ノ夫レト同様ニシテ即チ

- 一、主力艦
- 二、航空母艦

- 三、輕水上母艦

巡洋艦	備砲六、一時ヲ超ユルモノ
驅逐艦	備砲六、一時以下ノモノ

- 四、潛水艦

ニ區別セラルルモ唯（一）瑞典代表ハ同國等ニ一萬噸以下ニシテ八吋ヲ超ユル砲ヲ有スル沿岸防備

艦アル處之等ノ艦船ヲ他ノ大海軍國ノ有スル主力艦ト同一ニ取扱フコトハ不適當ナリトノ理由ニ依リ主力艦ヲ大小二種ニ分ツヘシト主張シ右ニ決シタルコト(二)佛國其ノ他ノ特殊事情ヲ考慮シ倫敦條約第三編ノ當事國ニ非サル諸國ハ前記備砲六、一吋以下ノ巡洋艦ト驅逐艦トヲ同一種別ニ包含セシムルノ選擇權ヲ有スルコトトセル(第二表參照)點ハ注意ヲ要ス

前記各艦種ノ定義ハ之ヲ本章第三附屬書第三ニ掲ク華府倫敦兩條約ノ定義ト大體同一ニシテ特ニ說明ヲ要セス

第十三條及第三表(噸數融通ノ原則)

本條ハ第十一條ニ依ル總噸數ノ範圍内ニ於テ各國カ第二表各艦種別割當噸數間ニ行フコトアルヘキ融通ノ規則ヲ掲クルモノニシテ海軍條項中大小海軍國間ニ最議論ノ岐レタル所ナリ即チ大海軍國側ハ融通ノ範圍ヲ成ルヘク嚴格ニ制限シ殊ニ潛水艦ヘノ融通及主力艦航空母艦ヘノ融通ハ之ヲ許ササルヲ可トストノ意向ナリシニ反シ小海軍國側ハ絕對的融通ノ自由ヲ要求シ小委員會ヲ開キ議論ノ結果漸クニシテ第三表ニ掲ケラルヘキ各國ノ融通量ヲ決定スヘキ原則トシテ

- (一) 各國ノ特殊事情融通艦種ヲ考慮スヘシ
- (二) 總「トン」數十萬「トン」ヲ超エサル國ハ水上艦船ニ關シ完全ナル融通ノ自由ヲ有スヘシ

(潛水艦ノ融通ハ認メス)

- (三) 他ノ國ニ關シテハ融通量ハ各自ノ總「トン」數ニ反比例シテ變化スヘシ

ナル三項ヲ決定スルヲ得タルカ右三原則ニ付テモ尙大小海軍國間ニ解釋ノ差異アルヲ免レス即チ英國代表ハ「右第一原則ハ第二及第三原則ヲモ律スルモノナリ」ト宣言セルニ對シ瑞典代表ハ小國ヲ代表シ「小海軍國カ華府倫敦兩條約ヨリ抽出セル多數ノ規定ヲ受諾セル代償トシテ得タル右三原則ノ保障ヲ弱ムヘキ如何ナル解釋ヲモ受諾スル能ハス」ト酬ヒタルカ如キ(報告書第一一八項及第一一九項)又伊國代表カ「伊國ハ右原則ノ適用ニ當リ潛水艦ヨリノ融通ニハ反對ナキモ潛水艦ヘノ融通ニハ反對スヘシ」ト宣言セルニ對シ西國代表ヨリ強キ反對留保アリタルカ如キ(同第一二四項及一二五項)明白ニ之ヲ示スモノニシテ何レノ途本會議ニ於テハ各小海軍國ニ割當テラルヘキ融通噸數ノ決定ニ付大ニ議論アルヘキコト豫想ニ難カラス

倫敦條約締約國ノ關スル限リハ融通噸數ハ同條約ノ規定ニ依ルヘキコトハ第五十三條ニ依ルモ將又本條中「各締約國カ既ニ加盟シ居リ又ハ將來加盟スルコトアルヘキ特殊條約ニ依ル一層嚴格ナル條件アル場合ヲ除クノ外」ナル字句アルニ依リテモ明ニセラレ居レリ尙此ノ點ニ付テハ米代表ノ念ノ爲ノ留保アリ(報告書第一二三項)

第十四條

本條ハ主力艦ノ單艦最大噸數及備砲ノ最大口徑ニ付華府條約第五條及第六條ト同様前者ハ三萬五千噸後者ハ十六吋ヲ超エサルヘキ規定ナリ右ニ對シテハ「ソヴィエト」代表ヨリ之ヲ一萬噸及十二吋ニ縮少スルノ提案ヲ爲シタルモ主力艦艦型等縮少ノ主義ニ付テハ假令反對ナシトスルモ之カ數字決定ハ準備委員會ノ權限外ナリトスルニ一致シ前記ノ噸數及口徑モ全ク單ナル例示ノモノニ過キストノ了解ヲ以テ之ヲ可決セル次第ナリ

第十五條

本條ハ航空母艦ノ單艦ノ最大噸數及備砲ノ制限ニ關スル華府條約第九條及第十條竝ニ倫敦條約第四條ヲ一括セルモノナリ即チ航空母艦ノ最大噸數及備砲口徑ハ夫々二萬七千噸及八吋ヲ超エサルヘク（第一項）又一萬噸以下ノ航空母艦ハ口徑六、一時ヲ超ユル備砲ヲ有スヘカラサルコト（第二項）及備砲數ノ制限（第三項）ヲ定ム

右ニ對シ西國代表ハ經濟上ノ理由ニ依リ大型航空母艦ヲ保有シ得サル國ニトリテハ前記第二項ノ規定ニ依ル制限ハ之ヲ受諾スルコト困難ナリトノ留保ヲ爲シタリ（報告書第一三一項）尙「ソヴィエト」代表ハ航空母艦廢止論ヲ唱ヘタリ

第十六條

本條ハ潛水艦ノ單艦最大噸數及備砲ノ最大口徑ニ付倫敦條約第七條第一項ト同様夫々二千噸及五、一時ノ數字ヲ掲ク「ソヴィエト」代表ヨリ艦型及備砲縮少案出テタルモ主力艦ノ場合ト同様本條ノ數字ハ例示的ノモノナリトノ理由ニ依リ之ヲ取上ケサリキ

第十七條

本條ハ前記諸制限ヲ超ユル艦船ノ取得及建造ヲ禁止スルノ規定ニシテ特ニ説明ヲ要スルモノナシ

第十八條

本條ハ艦船ノ代換規定ニシテ代換ノ規則トシハ本章第四附屬書ニ倫敦條約第二編附屬書第一ト同様ノ規定ヲ掲ク

第十九條

本條ハ商船ノ武裝制限ニ關スル規定ニシテ華府條約第十四條ト同文ナリ本條ニ關シテハ「ソヴィエト」代表ハ商船武裝禁止ヲ主張シ又我方ハ先ツ五大海軍國豫備的打合會ニ於テ制限外艦艇規則ヲ參酌シ

「又商船ハ之ニ左ノ飛行設備ヲ施スコトヲ得ス

一、空中ヨリ航空機ノ着艦スル様装置セラレタルコト

二、中央線上ニ航空機發進裝置一基ヲ又各艦側ニ一基ツツ即チ二基ヲ超エテ搭載スルコト

三、航空機ヲ空中ニ發進セシムル何等カノ手段カ裝置セラレタル場合ニ三機ヲ超ユル航空機ヲ海上ニ於テ行動セシムル様設計セラレ又ハ改造セラレタルコト」

ヲ追加規定スヘキ旨主張セルモ伊ノ沈黙ヲ除キ英米何レモ右提案ハ民間航空ノ發達ヲ害スルモノトシテ強硬ニ反對シ其ノ後本委員會ニ於テモ到底通過ノ見込ナカリシヲ以テ我方ハ本件ヲ更ニ軍縮本會議ニ於テ提案スルコトアルヘキ旨留保セリ（第六回後半會議議事録一八二頁及報告書第一三四項）

第二十條

本條ハ戰爭ノ場合他國ノ爲ニ建造中又ハ引渡未了ノ軍艦ヲ使用セサルコトニ關スル華府條約第十七條ト同一ノ規定ナリ

第二十一條

外國海軍ニ於テ軍艦ト爲スヲ得ルカ如キ方法ニ依リ自國軍艦ヲ處分セサルコトニ關スル華府條約

第十八條ト同一規定ナリ

第二十二條

本條ハ艦船ノ廢棄規定ニシテ廢棄ノ規則トシテハ本章第五附屬書ニ倫敦條約第二編附屬書第二ト同様ノ規定ヲ掲ク

第二十三條

本條ニハ固定練習用施設又ハ「ハルク」トシテ使用セラレタル現存艦船ノ保持ヲ許スコトニ關スル倫敦條約第十三條ト同一ノ規定ヲ掲ク

第二十四條

本條ハ陸軍機材ニ關スル第十條ト同一趣旨ニシテ即チ海軍機材ノ維持、購入、製造ニ要スル毎年經費ノ制限ヲ規定ス右ハ第六回後半會議ノ際英國代表ヨリ提案セラレタル所ニシテ日米佛等ノ反對アリタルニ拘ラス表決ノ結果通過セルモノナリ（議事録一九〇頁以下）從テ日佛米三國ハ報告書中ニ本條反對ノ留保ヲ爲セリ（第一三八項乃至第一四〇項）

尙本條ニ依ル經費制限ノ様式ハ第十條ノ場合ト同様千九百三十一年春ノ豫算專門委員會之ヲ作成シタルカ之亦陸軍ノ場合ト同様總括的經費ノ制限トナリ居レリ

右諸規定ノ外五大海軍國案ニハ

- (一) 巡洋艦ニ於ケル飛行設備許容歩合（倫敦條約第十六條第五號）
 - (二) 驅逐艦中ニ於ケル大型驅逐艦ノ許容歩合（同第十六條ノ第四號前段）
- アリシモ小海軍國側ノ反對アリ結局本會議ニ於テ締約國ノ或モノカ受諾スヘキ補足的制限規定トシテ例示的ニ之ヲ附記スルコトナレリ

丙 章 空 軍 軍 備

本章ハ空軍機材即チ飛行機及飛行船ノ制限竝ニ之ニ關聯シテ非軍用航空問題ニ付規定ス第一讀會案ニハ佛國原案ニ基キ非軍用航空問題ニ關シ重要ナル規定（第A D條）存シタルカ同條ハ第六回後半會議ニ於テ條約案中ヨリ削除セラレタリ（其ノ經緯ニ付テハ第五十七條解說ノ末段ヲ參照）又空軍機材經費ノ制限ニ關シ第六回後半會議ノ際英國代表ヨリ海軍機材經費制限ニ關スル（第二十四條）ト同一ノ提案アリタルモ少數ノ差ヲ以テ否決セラレタリ（議事錄第三〇五頁以下）

第二十五條

本條ハ陸海空軍及軍隊の組織團體ニ屬スル軍用飛行機（現用機及直接豫備機）ノ制限ヲ規定シ締約國ハ附屬表第一表ニ記載セラルヘキ機數及總馬力數ヲ超エテ軍用飛行機ヲ所有スヘカラサルモノトス

- 一、航空機ノ制限要素ニ付テハ第三回會議ノ際ニハ英案ハ機數ノミニ依ラムトシ日佛ハ總馬力數ノミニ依ラムトシタルカ瑞典代表ハ兩案ヲ配合スヘシトノ提案ヲ爲シ總馬力數ト機數トノ間ニ何等ノ比率ヲ保タシメストノ了解ノ下ニ日英其ノ他ノ各國代表モ右提案ニ同意セリ（議事錄一三五頁以下三二三頁）其ノ後第六回後半會議ニ於テ加奈陀代表ハ總馬力數制限ノ削除ヲ提案シタルモ（英國ノ支持アリ）多數代表ノ贊成ヲ得ス之ヲ撤回セリ（議事錄二九二頁以下）

- 二、制限セラルヘキ航空機ノ範圍ニ付テハ第三回會議ノ際英案ハ本國空軍第一線部隊ニ勤務中ナル航空機ニ限ラムトシ佛國案ハ航空隊ノ定數及航空隊ノ直接使用ニ充當セラルル豫備機ヲモ制限セムトセルカ討議ノ結果「諸隊ニ現用中」ノモノニ限ルコトニ妥協セリ第六回前半會議ニ於テハ獨蘇兩代表ヨリ現用、豫備及貯藏機ヲモ制限スヘシトノ案出テタルモ否決セラレ

次テ第六回後半會議ニ於テ英國代表ハ態度ヲ變更シ「政府ノ所有ニ屬スル完成セル軍用豫備機」ヲモ制限ノ範圍内ニ加ヘムコトヲ提案シ採擇セラレタルカ起草委員會ニ於テハ之ヲ「直接豫備機」ト改メタリ但シ其ノ意義ハ必スシモ明カナラス

三、領土別制限ニ付テハ第六回前半會議ノ際佛國代表ヨリ本國及植民地別航空機ノ制限ヲ欲スル國ハ任意的ニ之ヲ爲スヲ得ルノ規定ヲ提案シ可決セラル之レ本條附屬表ニ於テ右領土別制限ノ欄カ任意的トナリ居ル理由ナリ（議事録九八頁以下）

四、海軍艦隊所屬ノ航空機問題ニ付テハ第三回會議ノ際英案ハ「陸上根據地ニ配屬セラルル航空機」ニ限定セムトセルニ反シ佛案ハ苟モ軍用航空機ハ全部包括制限セムトスルモノナリシカ我方及米代表ハ英案ト主義ヲ同ウシ海軍艦隊所屬機ノ制限ハ海軍艦艇制限ニ依リ間接ニ行ハルヘキモノニシテ之ヲ空軍機材制限ヨリ除外スヘキ旨主張シタルカ委員會ノ大勢之ニ反對ナリシヲ以テ日英米三國共讓歩シ右種航空機ヲ一般空軍機材中ニ包含セシムヘキコトニ同意セリ（議事録一二六頁及二二三頁）其ノ後第六回前半會議ノ際佛國代表ヨリ前記（三）ノ領土別任意制限案ト共ニ航空母艦搭載ノ航空機數任意制限案ヲ提出シタルヲ以テ我方ハ其ノ任意的ナル點ニ着眼シ之ニ同意ヲ表セリ（議事録一〇一頁）

本條附屬表第一及第二ハ以上四項ニ關スル決定ノ結果ヲ表トシテ示セルモノナリ

第二十六條

本條ハ附屬表第三及第四ト共ニ飛行船ノ制限ヲ規定ス前條飛行機ノ制限ハ機數及總馬力數ヲ以テスルニ對シ航空船ノ制限ハ機數、總馬力數ノ外ニ總容積ヲ以テス其ノ他ノ點ニ於テハ前條並附屬表第一及第二ト同一ナルヲ以テ説明ヲ要セス

第二十七條

本條ハ前二條ニ所謂馬力數測定方法ニ付規定ス第三回會議ノ際佛國代表ハ馬力數ノ測定ハ國際航空委員會ノ採用セル規則ニ依リテ之ヲ行フヘキ旨提案シタルモ米國代表ハ本件馬力測定方法ハ軍縮本會議ノ決定ニ委スヘキ旨主張シ第一讀會案トシテハ右ニ決定シタルカ（議事録二六四頁）第六回後半會議ニ於テ英國代表ハ斯テハ各國ハ本會議前ニ自國空軍機材ノ所有量等ニ付資料ヲ提出スル際困難アルヘキニ付理事會ヲシテ專門委員會ヲ任命セシメ之ヲシテ本件算定規則ヲ研究セシテハ如何ト諮リ右ニ決セリ（議事録三四〇頁）

千九百三十一年一月理事會ノ任命ニ係ル本件專門委員會ハ同年四月會合一ノ折衷的算定規則ヲ定メタリ

一、本條ハ軍用航空ト非軍用航空トノ分化即チ第一項ハ非軍用航空機ニ對シ平時ヨリ武裝ヲ準備爲サシムルコトノ禁止第二項ハ非軍用航空企業ヲシテ義務的且永久的ニ空軍人員又ハ機材ヲ使用セシムルコトノ禁止第三項ハ軍用航空路ニ對スル補助金ノ禁止第四項ハ各國非軍用航空企業間ノ經濟的協定促進ニ付夫々規定ス

二、準備委員會ハ其ノ初期ニ於テB小委員會ヲ設ケタルカ同小委員會ハ更ニ非軍用航空問題殊ニ「軍用及非軍用兩航空ノ一括制限及非軍用航空ヲ參酌セル軍用航空制限ノ經濟上ノ影響」ニ付専門分科會ヲ設ケ研究セシムルコトトナリ同委員會ハ千九百二十七年二月武府ニ會合シ一方軍縮ノ結果非軍用航空ノ發達ヲ妨害スヘカラサルト共ニ他方軍用非軍用兩航空ノ分化ヲ益々助長セサルヘカラストノ結論ニ對シ八項目ノ意見ヲ提出セリ同年春開會ノ準備委員會第三回會議ニ於テ白國代表ヨリ右意見ヲ基礎トセル本條原案ノ提出アリ直ニ採擇セラレタルカ其ノ後第六回後半會議ニ於テ加奈陀代表ヨリ非軍用航空ニ使用セラルル空軍人員及機材ハ之ヲ本條約第一編及前記第二十五條及第二十六條所定ノ制限數内ニ算入スヘシトノ提案アリ之ヲ本條第二項末段ニ追加スルコトニ決定セル次第ナリ（議事録二九八頁以下）

第三編 豫算上ノ支出

第二十九條

一、本條ハ軍事費ノ總括的制限ヲ規定ス第十條及第二十四條カ夫々陸海軍機材經費ノ制限ヲ規定スルニ對シ本條ハ右機材經費ノミナラス人件費其ノ他一切ノ軍事費ヲ包括的ニ制限セムトスルモノナリ

二、軍事費問題ニ關シ第三回會議ノ際英國代表ノ提出セル案ハ豫算及決算ノ公表案ニ過キサリシニ反シ佛國案ハ豫算及決算ノ公表ノ外ニ豫算總額及機材經費ノ制限ヲモ規定セルカ豫算制限ニ付テハ日英米伊等ノ反對アリ佛案ハ公表ノ部ヲ除クノ外委員會ノ可決スル所トナラサリキ（議事録一九三頁以下）

三、然ルニ第六回後半會議ニ於テハ英伊共ニ其ノ態度ヲ變更シテ軍事費制限ヲ主張シ就中英國代表ハ前記佛案カ三軍ニ涉ル豫算ノ總額制限ヲ規定セルニ對シ之ヲ三軍別制限ト爲スノ修正ヲ提出シタルカ我方及米國代表ハ最後迄豫算制限ニ反對ノ態度ヲ固持セリ討議ノ末先ツ軍事豫算ノ制限ヲ行フノ可否ニ付表決セル處ニ反對スルモノハ日米ノミニテ大多數ヲ以テ可決セラレ次

テ一括制限ト三軍別制限トノ可否ニ付表決セル處僅カ一票ノ差ヲ以テ一括制限說多數ヲ占メタルモ佛國代表ノ提案ニ基キ右制限ノ様式ニ付テハ軍事豫算委員會ヲシテ研究セシメ其ノ結果ニ依リ本會議ニ於テ更ニ三軍別制限ノ可能ナリヤ否ヤヲ決定スルコトニ落着キタル次第ナリ（議事録一九五頁以下）

四、豫算委員會ハ本條ノ軍事費制限ハ結局決算ノ制限タルモノト決シ且三軍別制限ハ可能ナリトノ結論ニ達シタルヲ以テ軍縮本會議ニ於テハ右結論ニ基キ更ニ此ノ點ニ付再議セラルヘシト豫測セラル

第四編 報道ノ交換

本編ハ本條約實施ノ結果各締約國ニ於テ軍備ノ制限又ハ縮少ヲ行ヒタル狀況ヲ公表スル爲毎年事務總長ニ提出スヘキ報道ニ付規定ス報道交換即チ軍備ノ公表ニ關スル事項ハ第一讀會案ニ於テハ第五章一般規定中ノ一部トシテ掲ケラレタルモ第六回後半會議ニ於テ之ヲ獨立ノ一編トスルコトニ決定セルモノニシテ其ノ内容ハ人員、機材及軍事費ノ公表ニ涉ル即チ

人員ニ關スル公表（第三十條乃至第三十二條）

陸海軍機材經費ノ公表（第三十三條）

海軍機材ノ公表（第三十四條及第三十五條）

空軍機材ノ公表（第三十六條）

非軍用航空ニ關スル公表（第三十七條）

陸海空軍々々事費ノ公表（第三十八條）

尙右ノ中第三十條及第三十六條ハ附屬表トシテ詳細ナル公表様式ヲ掲ク
右公表資料ハ總テ事務總長ニ提出セラルヘキモノトス

第三十條

一、本條ハ人員數ノ公表ニ付規定ス即チ各締約國ハ附表ノ様式ニ依リ前年度ニ於ケル陸海空軍及軍隊の組織團體ノ人員數ヲ同年度末ヨリX月内(本會議ノ決定ニ委ス)ニ事務總長ニ提出スヘキコト及事務總長ハ右資料ニ基キ毎年遅クトモ、月日(本會議ノ決定ニ委ス)迄ニ一覽表ヲ作製スヘキコトヲ規定ス本條ニ該當スル第一讀會案第I A條ニ依レハ右人員ハ實員數ヲ以テ之ヲ公表スルコトトナリ居タルモ第六回前半及後半會議ニ於テ三軍共第二條人員制限ノ場合ト同シク日割平均人員ヲ以テスルコトニ改メラレタリ又第六回後半會議ノ際波蘭代表ノ提案(主トシテ「ソヴィエト」軍ヲ目指ス)ニ依リ右日割計算ノ基礎ヲ明ニスル爲兵役ノ種類(徵集兵、民兵、豫後備兵、國民兵等)ニ分チ其ノ實員數及勤務日數ヲ附記スヘキコトニ決セリ(第二項末段)

二、本條附表ハ要スルニ第二條ノ人員制限ノ結果ヲ公表スルモノナルカ故ニ第二條ノ附表ト其ノ構成及形式ヲ同ウス但シ本條附屬表ハ第二條附屬表ヨリ更ニ詳細ナル點アリ即チ次ノ如シ

- (一) 陸軍人員公表(第一表乃至第五表)
- (1) (ニ) 欄トシテ各徵兵國軍内ニ於テ自國ノ現役年數ヲ超過スルモ締約國中ノ最長陸軍現役

年限ニハ達セサル勤務期間ヲ有スル軍人ノ數ヲ記載スルコトノ一項アリ右ハ第六回前半會議ニ於テ人員階級別制限(舊第H條)ニ關スル討議ノ際ニ於ケル產物ナリ

- (2) (ホ) 欄トシテ一國兵力中國内法ニ依ル教育未完成新兵ノ數ヲ掲ケ得ル任意の規定アリ此種新兵ヲ多數ニ有スル佛國側ヨリ第六回前半會議ノ際提案セル所ナリ

- (3) 海外領土駐屯軍及海外軍隊の組織團體ニ付テハ第二條ノ制限規定ニ於テハ海外領土ハ全部一括セラレ居ルモ本條公表ノ場合ニハ各海外領土別ニ兵數ヲ掲クルコトトナリ居レリ第六回後半會議ノ際伊國代表カ佛國側ヲ目標トシテ提出セルモノニシテ佛英及我方ノ反對留保アリ(報告書第一八九項乃至第一九一項)

- (二) 海軍人員公表(第六表及第七表)

第二條ノ制限規定ニ於テハ我方ノ強硬ナル主張ニ依リ階級的區別制限ヲ廢シ總人員制限ニ依ルコトトナリタルモ階級別制限論者ニモ多少ノ満足ヲ與フル爲メ本條公表ノ場合ニハ(一) 士官(二) 締約國中ノ最長海軍現役年限以上ノ勤務期間ヲ有スル兵員ノ各ニ付テモ其ノ數ヲ掲クルコトニ折合ヘルモノナリ尙海軍人員ノ場合ニモ前記陸軍人員ノ場合ニ於ケル(ホ) 欄ト同一ノ任意の規定アリ

(三) 空軍人員公表(第八表乃至第十二表)ハ第二條制限規定ト同一ナルモ唯第八表及第九表ヲ任意的トセサルコト及陸軍人員ノ場合ニ於ケル(ホ)欄ト同一ノ任意的規定ヲ置ケルノ差アリ

第三十一條

本條ハ義務的ニ軍事準備教育ヲ受ケタル青年數ノ公表ニ付規定ス第六回後半會議ノ際佛國代表カ主トシテ獨伊側ヲ目標トシテ提案セルモノニシテ伊國代表ハ「義務的」ニナル字句ノ削除ヲ主張セルモ否決セラレ原案通採擇セラレタルモノナリ(第六回後半會議議事録二二―二一七頁)右ニ付伊獨兩代表ハ留保セリ(報告書第一九四項)

第三十二條

本條ハ徵兵國ニ於ケル法定勤務期間ノ公表ヲ規定ス第七條討議ノ際英獨側ヨリ現役日數ト爾後ノ勤務日數トヲ區別スヘシトノ提案アリタルコト前述ノ通ニシテ兵役年限ノ制限ニ關シテハ右區別ヲ認メサルコトトナレルモ其ノ公表ニ當リテハ之ヲ區別スルコトトシ本條ノ規定ヲ見ルニ至レル次第ナリ尙「現役」ナル語ハ國ニ依リ其ノ意義ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ避ケ「第一勤務期間」ト改メタルモ其ノ内容ハ何等變更ナシ

第三十三條

本條ハ陸海軍機材經費(維持費、購入費及製造費ノ決算)ノ公表ヲ規定ス即チ第十條及第二十四條ニ規定セラルル陸海軍機材經費ノ制限内ニ於テ各締約國カ前會計年度中現實ニ支出セル經費ヲ各機材ノ類別毎ニ公表スヘキ旨ヲ記載ス

抑々本條ノ前身ハ機材ノ公表ニ關スル第一讀會案第I B條ニシテ第三回會議ノ際和蘭ヨリ平時及貯藏機材ノ全般ニ涉ル詳細ナル公表案提出セラレ獨瑞ノ贊成アリタルモ我方ハ卒先之ニ反對シ蘭代表トノ間ニ激論アリ(議事録三〇二頁)同案ハ其ノ儘トナリタルカ第六回後半會議ニ於テ更ニ數日ニ涉ル討論アリ其ノ結果軍事專門委員會ヲ設ケ專門的研究ヲ爲サシメタルモ同委員會亦意見ノ一致ヲ見ス同議長ヨリ

(一) 貯藏機材ノ公表ニ關シテハ強硬ナル反對多ク一致ヲ見ス

(二) 平時機材ノ公表ハ之ヲ爲シ得ル意見多キモ一面之ヲ公表スルノ價值ナシトスル意見アリ

(三) 海軍及空軍機材ノ公表ニハ觸レサリキ

(四) 機材ノ數ニ依ラス價格ニ依ラムトスル日本委員ノ意見アリシモ多數ハ之ハ否認セリ

トノ趣旨ノ報告ヲ爲シ右ニ基キ更ニ討議ノ未結局佛代表ヨリ經費ノ公表ヲ以テ満足スル本條ノ如

キ規定ヲ提案シ少數ノ差ヲ以テ可決セラレタル次第ナリ（議事録二七〇頁以下）

尙本條ハ機材經費ノ總額公表ニハ非スシテ類別公表ナルノ點ハ特ニ佛國代表ノ力説セル所ニシテ右類別公表ノ様式ニ付テハ軍事豫算専門委員會ノ研究ヲ俟ツコトナレル次第ナルカ千九百三十一年二月開催ノ同委員會ハ機材ノ類別ニ依ル經費ノ公表ハ技術上不可能ナリトノ結論ニ達シ從テ公表様式ヲ作成スルニ至ラサリシヲ以テ軍縮本會議ニ於テ本件ニ付再議ヲ見ルヘキコトハ豫測ニ難カラス

第三十四條

本條ハ制限外艦艇ヲ除キ一切ノ軍艦建造ニ際シ其ノ要目ヲ聯盟事務總長ヲ通シ各締約國ニ通知スルノ規定ニシテ華府條約第二章第一款ノ（ロ）ノ一部及倫敦條約第十條ト趣旨ヲ同ウス

第三十五條

一、本條ハ第十九條ニ依リ建造セラレタル一切ノ船舶即チ六、一吋ヲ超エサル砲ヲ裝備スル爲必
要ナル甲板ノ補強設備ヲ爲シタル商船ノ船名及噸數ヲ現存船舶ニ付テハ本條約批准後二ヶ月以
内ニ又將來建造セラルヘキ船舶ニ付テハ完成ノ際ニ聯盟事務總長ニ通知スヘキ規定ニシテ第一
讀會案ノ第I G 條ト同文ナリ

二、本條ニ關シ米代表ハ此等商船中千九百二十一年前建造セラレ速力十二「ノット」以下ノモノ
ニ對シテハ之ヲ通知スルコト技術上困難ナリト爲シ又英國代表ハ政府所有船舶ト政府所命ノ商船
ニ關スル限り右通知ヲ爲スヘシト主張セルモ我方ハ本條ニ關係アル華府條約第十四條ニ付斯ル
制限的解釋アリシヲ聞カスト反駁セル爲英代表モ自說ヲ固執セス又米代表モ本會議迄研究スヘ
キ旨留保スルニ止マレリ（議事録三四六頁以下及報告書第二〇四項）

第三十六條

本條ハ第二十五條及第二十六條所定ノ飛行機及飛行船ノ制限内ニ於テ各締約國カ前年度中現實ニ
保有セルモノヲ公表スヘキコトヲ規定シ右公表ノ様式トシテ附屬雛形表第一乃至第四ヲ掲ク右附
表ハ第二十五條及第二十六條ノ附屬表ト同一ノ仕組ナルヲ以テ特ニ説明ヲ加ヘス

第三十七條

一、本條ハ非軍用飛行機及飛行船ノ數及總馬力數ノ公表（第一項前段）竝ニ非軍用航空ノ爲政府
又ハ地方官憲ノ支出セル經費ノ公表（同後段）ニ付規定ス本條第一項前段ハ第三回會議ノ際羅
馬尼代表ノ提案ニ係リ右ニ依レハ飛行機及飛行船ノ數ノミ公表スルコトトナリ居タルカ第六回
後半會議ノ際波蘭代表ヨリ總馬力數ヲモ公表スヘキコトヲ提議シ採擇セラレタル次第ナリ又第

一項後段ハ同シク第六回後半會議ノ際英國代表ノ提出ニ係ルモノトス
 二、本條ニ付米獨代表ハ本件非軍用航空ニ關スル報導ノ交換問題ハ之ヲ軍縮條約ヨリ切離シ特別ノ條約中ニ規定スルヲ適當トストノ意見ヲ述ヘ右趣旨ノ留保ヲ爲セリ（報告書第二〇九項及第二一二項）獨逸ハ千九百三十一年五月ノ理事會ニ於テ右留保ニ基キ更ニ特別條約締結ヲ提議セルモ日佛等ノ反對アリテ成立セス單ニ聯盟ノ交通部ヲシテ本件ニ關スル現行法規ヲ蒐集セシムルコトニ決セリ

第三十八條

本條ハ軍事費ノ公表ニ付規定ス即チ各締約國ハ前會計年度ニ於ケル實際上ノ支出額ヲ軍事豫算專門委員會ノ決定スヘキ公表様式ニ依リ事務總長ニ通告スヘキ旨規定ス

第一讀會案トシテハ英佛案ヲ基礎トシ豫算及決算ノ公表ニ關スル規定（第D A條及第D B條）アリタルカ第六回後半會議ノ際英代表ヨリ別ニ一定ノ様式ニ依リ前年度ノ經費ヲ通知スヘキ趣旨ノ提案アリ可決セラレ前記第一讀會案ノ規定ニ代リタル次第ナリ

豫算專門委員會ハ既ニ千九百二十七年ノ會合ニ於テ詳細ナル公表様式ヲ作成シタルカ前記第六回

後半準備委員會後ノ會合ニ於テ更ニ右様式ニ多少ノ修正ヲ加ヘ之ヲ採擇セリ（同委員會報告書第三六頁以下）

第五編 化學兵器

第三十九條

一、本條ハ毒瓦斯ノ使用禁止（第一項）及「バクテリア」ノ使用禁止（第二項）ヲ規定ス但シ第一項ハ相互主義即チ戰爭ノ場合相手國カ本條ニ違反シタル場合ニハ自國モ亦右規定ノ義務ヲ免ルルノ主義ヲ探レニ反シ第二項ハ絕對主義即チ相手國カ本條ニ違反シタル場合ト雖モ自國ハ「バクテリア」ノ使用ヲ許サレサルノ主義ヲ探レリ之後者ノ戰爭手段ハ必然的ニ一般非戰鬥員ニモ被害ヲ與フヘキヲ以テ特ニ其ノ禁止ヲ嚴重ニシタルモノナリ

二、本條原案ハ第三回會議ノ際白波塞羅智五國代表ヨリ提案セラレタル所ニシテ第一項及第二項共ニ絕對主義ヲ探リ且第三項及第四項トシテ右種戰爭手段ノ準備ヲモ禁止スルノ規定ヲ存シタルカ第六回前半會議ノ際白國代表ヨリ第一項及第二項何レモ相互主義ト爲スノ提案アリ且第三項及第四項ニ於テモ議論紛糾シタルカ結局第一項ヲ相互主義トシテ第二項ヲ絕對主義第三項及第四項ヲ削除スルコトニ落著キタル次第ナリ尙我方ヨリ第一項及第二項ハ千九百二十五年ノ化學戰禁止議定書ト同一趣旨ナルヲ以テ右規定ヲ本條約中ニ存置スル代リニ本條約中ニ本條約ノ

批准ハ當然ニ千九百二十五年議定書ノ批准ヲモ含ムモノトスルノ特別規定ヲ設クルニ止ムヘシトノ提案ヲ爲シタルモ表決ノ結果少數ノ差ヲ以テ否決セラレタリ(第六回前半會議議事録八一頁) 三、尙本條ニ關シ

- (一) 波蘭代表ハ千九百二十五年議定書ヲ擴充スヘキ提案ヲ軍縮本會議ニ提出スルコトアルヘキ旨(報告書第二二〇項)及化學兵器ノ攻撃ヲ受ケタル國ニ對スル相互援助條約ノ締結方ヲ他ノ機會ニ提議スヘキ旨(報告書第二二七項)ヲ明ニセリ
- (二) 獨逸代表ハ第六回前半會議(第二讀會)ノ際ニハ爆彈ノ投下禁止ヲ又第六回後半會議(第三讀會)ノ際ニハ所謂攻撃の兵器(巨砲及戰車等)ノ使用禁止ヲ提案セルモ何レモ否決セラレタルヲ以テ同代表ハ報告中ニ留保ヲ爲セリ(第二三〇項)
- (三) 英國代表ハ第六回後半會議ノ際本條ハ千九百二十五年議定書ト同様解釋上意見ノ不一致ヲ招致スヘク殊ニ催淚瓦斯ノ使用禁止セラルルヤ否ヤニ付疑義アルヲ以テ之ヲ一定スルノ要アリ英國政府ハ催淚瓦斯モ禁止セラルルモノト解シ居ルモ此ノ點ニ關スル各國代表ノ意見ヲ明ニシ度シトノ質問書ヲ提出シタルニ對シ日、佛、伊、羅、塞、智、西、蘇、土、加ノ各代表何レモ催淚瓦斯モ禁止セラルルモノト解スル旨ノ意見ヲ表明セルモ獨リ米國代表ハ催淚瓦斯ノ警

察使用及煙幕ノ問題ヲ例示のニ指摘シ化學的兵器中ニモ人道的見地ヨリシテ何等非難ニ値セス却テ他ノ兵器ニ比シ一層人道的ナルモノモアルヘキニ依リ此等兵器ノ個々ニ付何レカ果シテ條約ノ禁止範圍ニ入ルヘキモノナリヤヲ詳細且専門的ニ研究スルノ要アルヘク而シテ右ハ本委員會ノ權限外ナルヘキヲ以テ寧ロ此ノ際ハ英國提案ニ對シ各國政府ノ注意ヲ喚起シ本會議迄ニ充分ナル研究ヲ遂ケシムルコト適當ナルヘシト主張シ右ニ決セリ(第六回後半會議議事録三一頁以下)從テ本件ハ何レ本會議ニ於テ研究スルコトトナルヘシ

第六編 一般規定

本編ハ四章二十條ヨリ成リ本條約ノ實施ニ關聯スル諸問題ヲ規定ス即チ(一)本條約ノ實施ヲ監視スルノ任務ヲ有スル常設軍縮委員會ノ構成、運用及權限(甲章 常設軍縮委員會)(二)本條約實施ノ除外例(乙章 除外例)(三)締約國ヨリノ異議申立ノ處理方法(丙章 異議申立ノ手續)(四)本條約ト既存條約トノ關係(丁章 最終規定)(五)本條約ノ解釋又ハ適用ニ關スル紛争ノ處理方法、本條約ノ批准、效力發生及有効期間(丁章 最終規定)(六)本條約ノ再審査、改訂及廢棄手續(丁章 最終規定)等之ナリ一般規定ニ關スル問題ハ準備委員會第三回會議ノ際英佛原案ヲ基礎トシテ極メテ概括的ニ第一讀會ヲ行ヒタルノミニテ其ノ後之カ討議ヲ見ルノ機會ナカリシモ第六回後半會議ニ於テ英國側ヨリ詳細ナル新案文ノ提出アリタルニ對シ更ニ佛國側ヨリ多數ノ修正案出テ日、英、米、佛、伊、土、芬、希、中、白(批准、效力發生及改訂問題ニ付テハ蘇及瑞典ヲ加フ)ヨリ成ル小委員會ニ於テ主トシテ右新提案ヲ中心トシテ審議ノ結果左記諸規定ヲ採擇セル次第ナリ

甲章 常設軍縮委員會

準備委員會第三回會議ノ際提出セラレタル佛國案ハ本條約ノ實施ヲ監督スヘキ強力ナル常設監督委員會ノ設置ヲ規定セルニ反シ英案ハ何等之ヲ規定セス日米伊國代表亦何レモ監督制度ニ反對ノ態度ヲ執リ(第三回會議議事録二七三頁以下)本件ハ條約案中ノ難關ノ一ト目セラレタルモ第六回前半會議ノ終了ニ際シ佛代表ヨリ自國案ハ徒ニ論議ヲ紛糾セシムルノ虞アルヲ以テ之ヲ固執セストテ其ノ態度緩和ノ色ヲ示セルニ依リ(第六回前半會議議事録一九〇頁)本件妥解ノ曙光ヲ認メ得ルコトトナリ第六回後半會議ニ至リ英佛妥協案トモ稱スヘキ左記諸規定ノ採擇ヲ見タル次第ナリ

第四十條

本條ハ常設軍縮委員會ノ設置及其ノ構成ヲ規定ス第六回後半會議小委員會ニ於テ英佛兩案ノ外支那土耳其兩案ヲ合併セ審議ノ末採擇セラレタル案文ニシテ注意スヘキ點左ノ通

一、委員數(第一項)

如何ナル國ノ政府カ委員ヲ任命スルヤ又委員ヲ何名トスルヤノ問題ハ其ノ決定ヲ軍縮會議ニ讓レリ前記小委員會ハ本件常設委員會ノ任務ニモ顧ミ委員數ヲ或程度迄制限セサルヘカラストノ意見

ニ傾キテ締約國全部ノ委員ヲ以テ之ヲ構成スヘシトノ土耳其案ハ否決セラレタル次第ナリ

(註) 前記小委員會ニ於テハ

- (イ) 現任理事國及米蘇兩政府ニ於テ委員ヲ任命スヘシト爲ス英國案
- (ロ) 聯盟理事會及軍縮會議ノ決定スヘキ其ノ他ノ聯盟國竝ニ非聯盟國ノ一部ニ於テ委員ヲ任命スヘシト爲ス佛國案
- (ハ) 現任又ハ退任ノ理事國及軍縮問題ニ付地理上人口上及面積上特殊ノ地位ニ在ル聯盟國又ハ非聯盟國ノ中ヨリ軍縮會議ノ選舉セル國ニ於テ委員ヲ任命スヘシト爲ス中國案ノ三案提出セラレタリ

二、委員ノ資格(第二項及第三項)

各委員ハ(イ)各國政府之ヲ指名スルモ政府ヲ代表セス(ロ)任期中ハ死亡、任意的辭職又ハ重大且長期ニ渉ル疾病ノ場合ニ非サレハ解任セラレス(ハ)専門家ノ輔佐ヲ受クルヲ得ルコトトナリ居ル處右ハ各委員ヲシテ職務執行中絕對自由ノ立場ニ立タシメ政府ニ隸屬セサラシメムコトニ重點ヲ置ク英案ト各國政府夫々數名ノ専門家ヨリ成ル「デレガシオン」ヲ任命スヘシト爲ス佛案トヲ折衷セル案文ニシテ大體ニ於テ英案ヲ主トセルモノナルカ爲佛代表ハ留保ヲ爲セリ(報告書第二三八項)

三、委員ノ給與

本問題ニ付テハ和蘭委員ヨリ準備委員會ニ於テ注意ヲ喚起スル所アリタルモ右ハ將來ノ決定ニ委

スルコトトナリ條文中ニハ何等規定セサルコトトセリ

第四十一條

本條以下ハ常設軍縮委員會ノ運用手續ヲ規定ス

本條ハ常設軍縮委員會ハ條約實施ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ第一回會議ヲ開キ爾後ハ毎年一回通常會議ヲ開クヘキコト及右通常會議ノ外(一)條約ニ規定セラレタル場合(二)締約國ノ要求アリタル場合ニハ臨時會議ヲ開催スヘキコトヲ規定ス

第四十二條

本條ハ常設軍縮委員會自身ニ其ノ内部ノ規則ヲ制定シ又之ヲ改正スルノ權限ヲ附與スル重要ナル條項ナリ常設軍縮委員會カ右規則ヲ制定又ハ改正スルニ當リテハ本條約ノ諸規定ヲ考慮スルコトヲ要スルハ勿論ナリ

第四十三條、第四十四條及第四十五條

右三條ハ常設軍縮委員會カ議事ニ際シ遵守スヘキ諸條件ヲ定ム

- (一) 委員會ハ委員三分ノ二ノ出席アルニ非サレハ其ノ職務ヲ行フヲ得ス(第四十三條)
- (二) 決議ノ採擇ニハ出席委員過半数ノ贊同ヲ要ス(第四十五條第二項)

(三) 各委員ハ單ニ一個ノ表決權ヲ有ス(第四十五條第一項)

(四) 委員會ニ自國ノ委員ヲ有セサル各締約國ハ特ニ自國ニ利害關係アル問題カ委員會ニ提出セラレタル場合ニハ特別委員ヲ派遣出席セシムルノ權利ヲ有ス(第四十四條)

(五) 但シ第五十條(除外例ニ關スル規定)及第五十二條(異議申立ニ關スル規定)ノ場合ニ於テハ關係國ノ任命セル委員ノ表決ハ第四十五條第三項所定ノ過半数ニ算入セラレス右原則ハ第四十四條ニ依リ指名セラレタル特別委員ノミナラス通常委員ニモ適用セラル(第四十五條第三項)

(六) 小數側モ報告書ノ形式ニテ其ノ意見ヲ表明スルコトヲ得(第四十五條第四項)

第四十六條

本條ハ參考人聽取ニ關スル規定ナリ委員會ハ後記第四十九條ニ從ヒ其ノ必要ナル報道ヲ蒐集スヘキモ此等普通ノ報道ノ外第四十六條ハ提起セラレタル問題ノ審議ニ當リ參考人ヲシテ陳述ヲ爲サシムルノ權限ヲ各委員ニ賦與ス但シ各委員ハ右權限ヲ其ノ責任ノ下ニ於テ行使スルコトヲ要ス

第四十七條、第四十八條及第四十九條

一、右三條ハ常設軍縮委員會報告書ノ作成、通告及公表ニ關スル規定ナリ

二、各委員ハ其ノ意見又ハ提言カ委員會ノ報告書（必要ニ應シ別個ノ報告書）中ニ考慮セララルコトヲ要求スルノ權利ヲ有ス（第四十七條）

三、常設軍縮委員會ハ條約ノ適用ニ關スル報道ヲ受理シ之ニ依リ條約ノ實施狀況ニ關スル報告ヲ作成シ且之ヲ理事會及締約國政府ニ通告シ及公表スルノ權限ヲ有ス此等報道ノ審査ハ常設軍縮委員會ノ通常權限ト稱スルヲ得ヘク常設軍縮委員會ハ此ノ權限行使ニ依リ條約ノ適用ヲ監視シ規則正シク現況ニ關スル報告ヲ作成シ又必要アルトキハ發見セラレタル條文ノ過誤又ハ缺陷ヲ指摘スルノ任務ヲ有スル本條約ノ重要機關ト爲ル次第ナリ

四、第四十九條ニ依レハ

- (一) 常設軍縮委員會ノ受理スヘキ報道ハ原則トシテ各締約國ニ依リ條約上ノ義務ニ基キ聯盟事務總長ニ通告セラレタル報道ナルモ責任アル筋ヨリ出テ且委員會ニ於テ注意スルノ要アリト認ムル他ノ報道ヲ以テ右報道ヲ補足スルコトヲ得
- (二) 常設軍縮委員會ハ毎年一回右報告書ヲ作成スルコトヲ要シ其ノ締約國及聯盟理事會ニ對スル通告ハ直ニ爲サレ又其ノ公表ハ委員會規則ノ定ムル日ニ於テ爲サルルコトヲ要ス

(註) 常設軍縮委員會ノ權限ハ之ヲ

(一) 報道ノ蒐集及處分ニ關スル權限（第四十九條）

(二) 條約實施ノ除外例ノ場合ニ於ケル權限（第五十條）

(三) 締約國ノ異議申立ニ關スル權限（第五十二條）

(四) 條約改訂ニ關スル權限（第五十八條及第五十九條）

ニ四大別スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ内(二)(三)及(四)ハ寧ロ特別權限即チ特殊ノ場合ニ於ケル權限ト稱スヘキニ反シ(一)ハ同委員會ノ通常權限ト稱スルヲ得ヘシ第四十九條ハ即チ右(一)ノ權限ヲ規定ス

常設軍縮委員會ハ締約國カ條約上ノ(義務即チ主トシテ本條約第四編所定ノ公表義務)ニ依リ聯盟事務總長ニ通告スヘキ各種ノ報道ヲ受理シ右ニ依リ條約ノ實施狀況ニ關スル報告ヲ作成シ且之ヲ理事會及締約國政府ニ通告シ及公表スルノ權限ヲ有スル處此ノ點ニ關シテハ英佛兩案共一致シ居タルモ右以外ノ報道ニ關シ英案ハ成ルヘク廣キ範圍ニ於テ利害關係ナキ第三者ヨリノ報道ヲ得ルノ點ニ重キヲ置キ「其ノ他一切ノ報道」ト規定セルニ反シ佛案ハ何等根據ナキ無責任ナル個人的報道ヲ受理スルノ危險ナルヲ慮リ「其ノ他委員ノ通告スヘキ一切ノ報道」ト規定シ且「各委員ハ自己ノ責任ヲ以テ參考人ノ聽取ヲ要求スルコトヲ得」トノ趣旨ノ規定ヲ置キタルカ小委員會ニ於テハ議長ノ折衷案ニ依リ締約國以外ヨリ受クヘキ報道ハ「責任アル筋(Source autorisée; responsible source)ヨリ出テ且委員會ニ於テ注意スルノ要アリト認ムルモノ」ニ限ルコトトシ(第二項)且參考人ノ聽取ニ關スル佛案ヲモ別ニ採擇スルコトニ折合ヒタル次第ナリ(第四十八條參照)

乙章 除外例

第五十條

一、準備委員會ハ條約ノ規定ニ最大ノ不變性ヲ與ヘンコトヲ希望シタルモ或ル場合ニ於ケル除外例ヲ規定セサルヲ得サリキ蓋シ軍縮ノ如キ國防ノ「ヴァイタル、インテレスト」ニ關スル事項ニ付テハ例外的措置ヲ必要トスル重大ナル事態發生シ得ヘキナリ

本條ハ締約國ニ於テ自國ノ安全カ事態ノ變更ニ依リ脅サレタリト認ムルトキ一定ノ條件ノ下ニ條約ノ全部又ハ一部ヨリ生スル義務ヲ一時免レ得ヘキコト即チ所謂「條約實施ノ除外例」ノ場合ヲ規定ス

二、締約國カ一定ノ重大ナル場合例ヘハ戰爭ノ場合ニ於テ條約ノ全部又ハ一部ノ義務ヨリ一時免除セラルルコトヲ得ルノ規定ハ第一讀會案ニ於テモ第X A條（英佛兩案）トシテ掲ケラレタル所ナルカ第六回後半會議ニ於テハ本問題ニ付英佛米塞四國ノ提案アリ右ノ内米案ハ華府條約第二十二條及倫敦條約第二十一條ト趣旨ヲ同フシ「締約國ハ自國ノ安全カ事態ノ變更ニ依リ脅カサレタリト認ムル時ハ他ノ締約國ニ對シ直ニ説明ヲ附シタル通告ヲ發スルコトヲ條件トシテ條

約ノ全部又ハ一部ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ヘク他ノ締約國ハ右ニ依リ生シタル事態ニ對シ執ルヘキ措置ヲ遲滯ナク協議スヘシ」ト云フニ在リテ前記小委員會ハ大體ニ於テ同案ヲ採擇スルニ決シタルカ唯

(一) 米案中締約國カ條約ノ義務ヲ免ルル條件トシテ其ノ事實及理由ヲ他ノ締約國ニ通知スヘキコトトナリ居リタルヲ白國代表ノ提議ニ依リ一層之ヲ擴充シ事務總長ヲ經テ常設軍縮委員會ニモ通知スヘキコトトセリ（第一項イ）及（ロ）尤モ右ノ場合常設軍縮委員會カ如何ナル權限ヲ有スヘキカ即チ同委員會ハ締約國カ新事態ニ對シ執ルヘキ措置ニ付キ協議スルニ先チ委員會トシテノ報告又ハ意見ヲ提出スヘキ旨規定スヘシトノ說モアリタルカ米國代表ハ之ヲ欲セス結局條文中此點ハ何等記載セサルコトトナレリ

(二) 本條濫用防止ノ他ノ方法トシテ白國代表ノ提議ニ依リ本條約ノ解釋及適用問題ヲ義務の仲裁裁判ニ附スルノ規定ヲ設ケ（後出第五十四條）又本條ノ規定ハ聯盟國ノ關スル限リ聯盟規約ニ依ル權利義務ニ何等變更ヲ及ホスヘキモノニ非サルコトヲ準備委員會報告書中（第二六〇項）ニ明記スルコトトセリ

三、尙本件除外例ハ條約案中戰爭ノ場合ニ適用セラルヘキコトノ明記セラルル條項ニハ適用ナキ

旨規定セラレ居ルモ（第一項）右ハ例ヘハ第二十條（第三國ノ註文ノ軍艦使用禁止）又ハ第三十九條（化學戰禁止）等ノ場合ヲ指スモノニシテ此種條項ニ付テハ除外例ノ認メラレサルヘキコトヲ明白ニセルモノナリ

丙章 異議申立ノ手續

第五十一條

本條ハ軍縮條約違反カ該違反ニ直接關係ヲ有スルト否トヲ問ハス一切ノ締約國ニ關係スル問題ナルコトヲ明ニセルモノニシテ從テ何レノ締約國モ右違反アルコトヲ認メタルトキハ後出第五十二條所定ノ手續ニ依リ直ニ異議申立ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノトス

第五十二條

本條ハ條約違反ニ關スル異議申立ノ手續ヲ規定ス即チ第一項ハ異議申立ハ締約國ヨリ事務總長ヲ通シ常設軍縮委員會ニ對シ爲サルヘキコトヲ第二項ハ同委員會ニ於テ關係國代表者ノ説明ヲ聽取シタル後報告ヲ作成シ之ヲ締約國及理事會ニ通告スヘキコトヲ第三項ハ締約國ニ於テ右報告ノ結論ニ付協議スヘキコトヲ又第四項ハ直接關係國カ總テ聯盟國タル場合理事會ハ規約ニ依ル權限ヲ

行使シ以テ軍縮條約ノ遵守ヲ確保シ且世界ノ平和ヲ維持スヘキコトヲ規定セリ

（註）本條ノ第一項及第二項ニ付テハ小委員會ニ於テ議論ナカリシモ第三項即チ常設軍縮委員會カ條約違反ノ事實ヲ確認セル場合ニ於ケル所謂「制裁」ノ問題ニ付テハ英案ハ單ニ締約國及理事會カ平和維持ノ爲適當ト認ムル措置ヲ執ルヘキコトヲ規定スルニ反シ佛案ハ一定ノ條件ノ下ニ條約改訂ヲモ豫見シ居リ小委員會ニ於テモ大ニ議論アリタル所ナルカ英代表ハ條約改訂ハ聯盟規約第八條トモ關聯シテ重大ナル結果ヲ生スヘキヲ以テ成ルヘク之ヲ避ケヘシト説キ米代表ハ常設軍縮委員會ニシテ單ニ専門的意見ヲ表明スル機關ナルニ於テハ敢テ異議ナキモ之ニ決定的權限ヲ賦與シ同委員會ノ決定力直ニ法律的效果ヲ生スト爲スコトニハ絶對ニ同意シ難シト爲シ又土代表ハ現在世界ニ存在スル紛争解決及平和維持ノ機關ハ多種多様ナルヲ以テ常設軍縮委員會ノ報告アリタル後執ルヘキ手段ニ付テハ條約中ニ之ヲ限定規定セサルヲ可トスト述ヘ佛案ニ同意スルモノ少ク結局前記米土等非聯盟國ノ立場ヲ考慮スルト共ニ聯盟國ノミノ關係ヲモ豫想シ前記ノ如キ規定ニ落着キタル次第ナリ

尙右ノ場合一切ノ平和的處理手續（第五十四條所定ノ仲裁裁判又ハ司法的解決ヲ含ム）ノ適用アルヘキコトハ明ニシテ此點ハ爲念準備委員會報告書第二六四項後段ニ記載セラレタリ

丁章 最終規定

本章ハ（一）本條約ト既存軍縮條約トノ關係（第五十三條）（二）本條約ノ解釋及適用ニ關スル紛争ノ處理手續（第五十四條）（三）批准、實施、改訂及廢棄（第五十五條乃至第六十條）等ニ關スル規

第五十三條

一、本條ハ本條約ト既存軍縮條約トノ關係ヲ規定スル重要條項ノ一ナリ即チ第一項ハ本條約カ特定國間ノ既存軍縮條約(例ヘハ「ヴェルサイユ」條約又ハ華府及倫敦海軍條約ノ如シ)ニ影響ヲ及ホスコトナキ旨ヲ規定シ第二項ハ一定締約國ニ於テ本條約署名ノ際前記既存條約ノ效力維持ヲ條件トシテ本條約所定ノ兵力ヲ受諾スル旨宣言シ得ルノ趣旨ヲ規定ス

二、第一項ノ趣旨ハ既ニ第一讀會ニ於テモ第E A條トシテ採擇セラレ唯獨代表ヨリ本條約案カ果シテ同國ヲ満足セシメ得ヘキ性質ノモノナリヤ否ヤ未タ不明ナルヲ以テ第二讀會ノ結果ヲ見ル迄一般の留保ヲ爲ス旨ノ聲明アリタル次第ナル處第六回後半會議ノ際獨代表ハ右留保ニ立脚シ「今次委員會ノ採擇セル條約案ハ陸軍條項ノ部ニ於テ空文ニモ均シク獨逸ヲシテ一方斯ル不完全ナル條約案ヲ受諾セシムルト共ニ他方「ヴェルサイユ」條約ノ軍事條項ニ依ル同國ノ義務ヲ其ノ儘存續セシメムトスルカ如キハ全ク獨逸ヲ軍縮事業ヨリ排除スルモノト云フヘク第一次軍縮條約案ハ少クトモ一切ノ國ノ安全ヲ考慮シタル公正ナルモノ即チ「安全保障ノ均等」ヲ實現スル性質ノモノタラサルヘカラス」ト聲明セルニ對シ英代表其ノ他ノ反駁アリ伊勃兩代表ヨリ

本條ヲ削除スルト共ニ問題ヲ軍縮本會議ニ讓ルヘシトノ提案アリタルモ否決セラレ本條ノ可決ヲ見タル次第ナリ依テ獨逸代表ハ前記同代表聲明ノ趣旨ニ基キ留保ヲ爲シタリ(準備委員會報告書第二七三項)尙右ノ際米國代表ハ本條項ニ贊成投票ヲ爲スハ前記政治論トハ何等關係ナク唯華府倫敦兩條約ノ效力維持ニ重キヲ置キタルノミト聲明セリ(第六回後半會議事錄二六一頁以下)

(註) 尙第一項ニ付テハ英國側ヨリ「軍縮條約ハ既存條約ノ義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ」トノ案文提出アリタルモ華府倫敦兩條約ハ一定ノ義務ノミナラス例外的權利(例ヘハ倫敦條約第七條第二項、第三項、第十二條第三項、第四項、第十八條、第二十條)ヲモ規定セルヲ以テ單ニ「義務」トノミ規定スルニ於テハ此等權利ノ消滅スルコトナキヤヲ慮リ我方ヨリ小委員會及本委員會ニ於テ第一讀會案通「既存條約ノ規定」云々トスヘキ旨主張シ可決セラレタリ(第六回後半會議事錄三五四頁)

三、要スルニ本條約ト既存軍縮條約トノ關係ハ軍縮會議ニ於テモ大ニ問題トナルヘキ事項ノ一ニシテ準備委員會報告書第二七一項及第二七二項所載ノ通右關係ハ各具體の場合ニ付同會議ニ於テ之ヲ決定スルノ外ナカルヘシト認メラル

第五十四條

本條ハ本條約ノ解釋又ハ適用ニ關スル紛爭ヲ義務的仲裁裁判(仲裁裁判及司法的解決ヲ含ム)ニ

依リテ解決スヘキコトヲ規定ス本條ハ白耳義代表ノ提案ニ基クモノニシテ第六回後半會議第二讀會ノ際討議セラレ英米代表等直ニ之ニ同意セルモ我方及「ユーゴースラヴィア」代表ハ條約ノ適用問題ニ付テハ常設軍縮委員會モ亦意見表示ノ權限アルヲ以テ（第五十一條ノ部參照）將來同委員會ト仲裁裁判所又ハ常設國際司法裁判所トノ間ニ權限ノ衝突又ハ意見ノ相違ヲ惹起スルコトナキヤヲ注意シタル結果（第六回後半會議々事録第二五七頁）起草委員會ニ於テ右ノ點ヲ考シ「當該紛爭カ當事國間ニ直接ニ又ハ他ノ何レカノ友誼的解決ノ方法ニ依リ解決セラレ得サルトキハ」常設國際司法裁判所又ハ當事國ノ選擇スル仲裁裁判所ノ決定ニ付託スルコトニ改メ可決セラレタリ尙準備委員會報告書第二七五項ニ於テ常設軍縮委員會ハ諮問機關ニシテ決定機關ニ非サルヲ以テ同委員會ト裁判所トノ間ニ權限ノ衝突ヲ生スルコトナカルヘキ旨ヲ明ニシ居レリ即チ第五十一條ニ依リ同委員會カ本條約ノ適用ニ關スル紛爭ニ付意見ヲ表明シ右ニ基キ締約國間又ハ理事會ニ於テ平和的處理方法ヲ講スルモ尙其ノ效ヲ奏セサル場合ニ於テ始メテ本條ノ適用ヲ見ルヘキモノトス

第五十五條

一、本條ハ本條約ノ批准及實施ニ關シ規定ス即チ第一項ハ批准及批准寄託手續、第二項ハ實施ノ條件、第三項ハ右條件成就セサル場合ニ於ケル會議ノ召集ニ付夫々規定ス何レモ大體英國案ニ依リタルモノニシテ特ニ説明ヲ要スル事項ナシ唯第三項ハ本條約カ一定期日迄ニ效力ヲ發生セサル場合ニ於ケル善後措置ヲ規定スルモノナルヲ以テ寧ロ本條約中ヨリ之ヲ削除シ別ニ最終議定書又ハ署名議定書ノ如キモノノ中ニ規定スルヲ可トスヘントノ說出テタルヲ以テ此點ハ軍縮會議ノ決定ニ委ヌル旨條約案ノ脚註及報告書（第二七八項）ニ記載スルコトトセリ

二、本條ニ關聯シ一言スヘキハ第一讀會案ニハ「締約國ハ「エストニア」、芬蘭、「ラトヴィア」、波蘭及羅馬尼カ本條約署名ニ際シ露國カ右諸國ト同一條件ニテ本條約ニ加入スル迄本條約中或條項ノ右諸國ニ對スル適用ノ停止ヲ確保スル爲ニ爲スコトアルヘキ留保ヲ承認スル」趣旨ノ規定（第E C條）アリ右ハ準備委員會第三回會議（即チ「ソヴィエト」政府ノ同委員會參加前）ニ於テ芬波羅ノ三代表ヨリ提議セルモノニシテ同會議ニ於テモ頗ル議論アリ（第三回會議議事録第三一二頁以下）タル所ナルカ第六回後半會議ノ小委員會ニ於テハ芬蘭代表ハ關係諸國ヲ代表シテ本條ヲ其ノ儘條約案中ニ存置スルト共ニ之カ審議ヲ軍縮會議ニ讓ルヘキ旨強ク主張セルモ他國代表ハ大體本條存置ニ反對ニシテ結局本條ヲ削除スルト共ニ報告書中ニ本件カ第一ニ政治問題ナルコト第二ニ他ノ留保問題トモ關聯シ極メテ複雑ナル法律問題ヲ發生スヘキコトヲ理

由トシテ其ノ審議ヲ軍縮會議ニ讓ル旨記載スルニ止ムルコトニ決セリ（報告書第二八〇項）本件ハ何レ軍縮會議ニ於テ「ソヴィエト」聯邦政府ノ態度トモ關聯シ更ニ問題トナルヘキ問題ナル處我方トシテハ前記「ソ」聯邦接壤諸國ト同一類似ノ懸念ヲ有スル次第ナルモ前記諸國ノ提案ノ如キ「ソ」聯邦ヲ特ニ指定シテ之ヲ條約ニ明記スルコトニハ贊同セス寧ロ別ニ一般の規定ニ依リ同一ノ目的ヲ達シ得ヘシトノ態度ニ出テ來レル次第ナリ（第三回會議議事録三一四頁）

第五十六條

本條ハ條約ノ發效ト共ニ各締約國ハ條約ノ各條項實施ノ爲必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨規定ス本條亦英國代表ノ提案ニシテ其ノ内容ハ寧ロ自明ノ理ナルモ各締約國ニ於テ他國ノ條約實施振ヲ見極メタル上ニテ措置ヲ執ルカ如キコトナキ様念ノ爲規定セルニ過キス軍縮會議ニ於テ本條ヲ最終議定書又ハ其ノ他ノ附屬議定書中ニ挿入スルコトトナルヤモ知レス（報告書第二八一項）

第五十七條

一、第五十七條ハ本條約ノ有効期間ニ關スル規定ナリ有効期間ハ條約締結ノ際ニ於ケル事態ヲ考慮シテ決定スルノ必要アルヲ以テ準備委員會ハ之ヲ何年トスヘキヤノ決定ヲ軍縮會議ニ委ネタリ 聯盟規約第八條第三項ハ軍縮條約ハ少クトモ十年毎ニ再審査ニ付セラルヘク且更正セラ

ヘキモノナリト規定シ聯盟國ノ關スル限リ其ノ最長限ヲ定メ居ル關係上本條所定ノ有効期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得サルヘシ

二、準備委員會第三回會議ノ際英國代表ハ海軍條項ト陸空軍條項トニ付有効期間ヲ異ニスルノ案ヲ提出セルモ第六回後半會議ニ於テハ之ヲ固執セズ唯本條約ノ有効期間ト華府倫敦海軍條約ノ如キ他ノ軍縮條約ノ有効期間トノ間ニ調和ヲ保タシムルノ要アルヘキコトニ付注意ヲ喚起スルニ止マレリ（報告書第二八三項）

三、前記有効期間ハ軍縮會議ニ於テ決定セラルルモ右ハ伸縮性ナキモノニ非ズシテ二個ノ例外認めラル、即チ第五十八條及第五十九條所定ノ場合ニハ或ハ短縮セラルベク又第五十七條後段ノ規定ニ依リ延長セラルルコトモアリ得ベシ何レニセヨ本條約ハ有効期間ノ滿了ト共ニ全部ノ消滅ヲ見ルガ如キコトナク改訂又ハ廢棄ナキ限リ引續キ效力ヲ有ス

四、斯クノ如ク改訂又ハ廢棄ナキ限リ本條約ヲ存續セシムルハ明春ノ軍縮會議ノ成果ガ其ノ代案成立前ニ突如消滅スルガ如キコトヲ避ケンガ爲ナリ（報告書第二八五項）

第五十八條

一、第五十八條ハ第五十七條所定ノ有効期間滿了前ニ本條約ヲ再審査スルノ必要アル旨ヲ規定ス

右再審査ハ條約實施後相當ノ期間ヲ經タル後ニ非レハ之ヲ行ハサルコトシ右期間ハ軍縮會議之ヲ決定スルコトトセリ 即チ本條ハ本條約ノ有効期間タルX年(例ヘハ十年)ノ滿了前且條約實施ヨリY年(例ヘハ五年)後ニ於テ聯盟理事會ハ本條約再審査ノ爲會議ヲ招集スヘキコト及理事會カ右會議ノ期日決定ニ當リテハ豫メ常設軍縮委員會及非聯盟國タル締約國ノ意見ヲ確ムヘキ旨ヲ規定ス 會議ノ開催時期ヲX年前Y年後ト爲シ確然ト記載セス理事會ニ之カ決定ヲ委任セルハ政治其ノ他四圍ノ狀況カ再審査ニ最モ都合良キ時ヲ選ハシメントスルノ考慮ニ出ツ

二、右會議ハ必要アリト認ムルトキハ本條約ノ一部又ハ全部ノ改訂ヲ行フコトヲ得ヘク改訂條約成立ノ場合ニハ其ノ有効期間及改訂條件等ハ改訂條約自ラ之ヲ規定スルコトヲ得ヘシ

第五十九條

一、前條所定ノ手續ハ改訂ノ通常手續ニシテ相當ノ期間(Y年)經過後ニ非レハ之ヲ行フヲ得サルカ本條ハ右ノ例外トシテ前記Y年前ニ本條約締結當時ノ條件カ技術ノ進歩又ハ特殊事情ノ發生ノ結果條約ノ再審査ヲ必要ナラシムルカ如キ重大ナル變更ヲ受ケタル場合ニハ締約國ハ本條約ノ再審査ヲ要求シ得ヘキコトヲ規定ス但シ右再審査ハ條約實施ヨリZ年(例ヘハ三年)後ナ

ルコトヲ要ス

二、前述ノ如ク本條約案第五十七條、第五十八條及第五十九條ニ於テハ三個ノ期間規定セララル、即チ第一(X年例ヘハ十年)ハ條約ノ通常有効期間、第二(Y年例ヘハ五年)ハ原則トシテ再審査會議招集シ得サル期間、第三(Z年例ヘハ三年)ハ如何ナル場合ニ於テモ(假令第五十九條所定ノ事態變化アルモ)再審査ヲ行ヒ得サル期間ナリ

三、抑々條約ノ改訂手續ニ關シテハ第六回後半會議ノ際英佛兩案ノ提出アリ英案ハ

- (イ) 條約發效後X年後六ヶ月内ニ一定數ノ國ヨリ要求アリタルトキ條約改訂會議ヲ開催スルコト
- (ロ) 條約實施七年目毎ニ(イ)ト同一條件ニ依リ補足的改訂ヲ行ヒ得ヘキコト
- (ハ) 條約ノ改訂セラレサル部分ハ引續キ一切ノ締約國ヲ拘束スヘキヲ規定シ

佛案ハ

- (イ) 條約違反國カ常設委員會ニ對シ説明ヲ拒否セルカ又ハ同委員會カ違反事實ノ繼續ヲ確認シタルトキノ制裁トシテ又
- (ロ) 條約締結當時ノ條件カ技術上ノ進歩又ハ特殊事態例ヘハ豫見シ得サリシ非軍用航空ノ發

達ニ依リ變更ヲ受ケタルトキニ於ケル匡正方法トシテ

締約國カ條約改訂ヲ要求シ得ヘキコトヲ規定セルカ小委員會ニ於テハ兩案ヲ折衷シテ條約案ノ如キ條文ヲ起草セル次第ナリ

四、本條ニ付テハ前記佛案(ロ)記載ノ非軍用航空問題ニ關シ報告書中ニ一方日英佛波四國代表ノ留保アルト共ニ(報告書第二九二項乃至第二九四項)他方獨逸代表ノ留保アリ(同第二九五項)本件留保ハ非軍用航空ト軍縮トノ關係ニ關スル重要ナル根本主義ヲ包含スルモノナルニ依リ右ニ至レル經緯ヲ左ニ記述スヘシ

第一讀會ニ於テハ佛案ヲ基礎トシ

(一) 各締約國ハ他國ニ於ケル非軍用航空ノ現狀ヲ考慮シテ本條約規定ノ軍用航空制限ヲ受諾ス(所謂第A D條)

(二) 條約實施期間中締約國中ノ一又ハ數國或ハ非締約國ノ又ハ數國ノ軍用又ハ非軍用航空カ締約國ノ安全ニ對シ危險ヲ構成スルニ至レルトキハ該締約國ハ右新事情ヲ常設軍縮委員會ニ通告シテ條約ノ改訂ヲ求ムルコトヲ得(所謂第Z D條)

トノ二個ノ規定アリ第A D條ノ審議ハ第六回前半會議ノ際第Z D條討議ノ際ニ讓ラレ且第Z D

條ニ關シテハ右第一讀會案ノ儘ニテハ主トシテ米獨等ニ反對アリ通過ノ見込ナカリシヲ見越シテ第六回後半會議ノ際佛國側ヨリ前記ノ如ク條約ノ一般改訂問題ト關聯セシメタル提案ヲ爲シタル次第ナリ而シテ右佛新提案ハ他ノ一般條項ト共ニ小委員會ニ附議ノコトトナレルヲ以テ我方ハ本委員會(第六回後半會議事錄二六六頁)ニ於テ第Z D條ノ成行如何ニ拘ラス第A D條ハ討議未濟ナルヲ以テ不日討議決定ヲ要スヘキ旨ヲ提議シ結局前記小委員會ニテ第A D條ヲモ併セ討議スルコトトナレリ而シテ同小委員會ニ於テ米國代表ハ「先ツ非軍用航空問題ニ付テハ成ルヘク公開ノ本委員會ニテノ討議ヲ避ケ輿論ヲ刺激セサル様致度キ旨前提シタル後苟モ非軍用航空ヲ以テ軍備ノ一要素ト看做スカ如キ規定ハ米國政府及輿論ノ斷シテ承認シ得サル所ニシテ斯ル趣旨ノ規定ノ存置ハ米國ノ軍縮條約參加ヲ困難ナラシムヘキ旨ヲ力說シ且卒直ニ云ヘハ今回ノ條約案ハ陸軍々備ニ關スル限り米國側ヨリ見レハ不満足ノ點多々アリ唯會議ノ進捗ヲ妨害セサル爲強テ故障ヲ唱ヘサルノ態度ヲ持續シ居ル際若シ非軍用航空ノ問題ニテ投票ノ結果米國側カ少數ニ陥ル様ノコトアラハ米國側ノ條約參加熱ヲ甚シク冷却セシムルノ虞アル點考量アリ度シ尤モ條約案以外ニ於テ右條文ト同一趣旨ノ決定ヲ見ルコトニハ異議ナシ」ト述ヘタルニ對シ英國代表ハ「事情斯クノ如クナルニ於テハ佛提案中」例ヘハ豫見シ得サリシ非軍用航空ノ發

達」ナル字句ヲ削除スルト共ニ英佛日其ノ他本件ニ重キヲ置ク諸國ハ右條文カ特ニ非軍用航空發達ノ場合ヲ目指スモノナリトノ意味ニ於テ之ヲ受諾スル旨ヲ委員會ノ報告中ニ明記スルコトトシテハ如何ト諾リ且英國モ「何等ノ制限ナキ他國ノ非軍用航空ヲ考量ニ加ヘサル自國軍用航空ノ制限ノ如キハ絶對ニ贊成シ難ク英國政府トシテモ此ノ點ニ付テハ頗ル敏感ナリ」ト切言シ佛代表モ遂ニ英ノ妥協案ニ同意スルニ至リ我方ハ英佛ニシテ既ニ報告書記載ヲ以テ満足スル以上我方モ強テ反對ヲ唱ヘサルヘキモ本件ハ單ニ條約改訂ノ問題タルノミナラス軍縮會議ニ於テ如何ナル見地ヨリ一國ノ軍用航空ヲ制限スヘキヤノ問題ナルヲ以テ第A D條ノ趣旨モ報告中ニ明記シ日本其ノ他ノ同一ノ見解ヲ有スル國名ヲ記入スヘシト主張シ日英佛共同ノ態度ニ出ツルコトニ決セリ其ノ後ノ本委員會ニ於テ本條審議ノ際日英佛各代表ヨリ更ニ自國ノ態度ヲ聲明シ波蘭代表亦右三國ト同一態度ニ出テ(第六回後半會議議事錄二八六頁)報告書ニハ四國ノ名ヲ以テ前記ノ留保ヲ明ニスルコトトナレル次第ナリ

第六十條

本條約ノ廢棄手續ヲ規定ス即チ一方各締約國ニ對シ廢棄ノ權利ヲ認ムルト共ニ他方或國ノ廢棄ノ爲條約全體ノ均衡ヲ破ルコトナカラシメムカ爲廢棄ハ前記第五十八條及第五十九條所定ノ再審査

會議中ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス且廢棄ノ效果ハ二年後ニ非サレハ發生セス又如何ナル場合ニモ條約ノ通常有効期間終了前ニハ發生セサルヘキコトヲ規定ス